

www.ushio.co.jp

未来は「光」でおもしろくなる



洗う 固める

未来は「光」でおもしろくなる

エジソンが白熱電球を発明してから120年あまり。
光がエネルギーとして利用されはじめてからは50年足らず……。
「光」にはまだ知られていない多くの可能性があると言われています。

「光をあかりとしてだけでなく、紫外線を光化学エネルギーとして、
赤外線を熱エネルギーとして利用することで、新しい光市場を創造する」。
この事業方針のもと、ウシオは1964年の創業時から、今日まで
「光」のプロフェッショナルとして光の可能性に挑戦し続けてきました。

そしてこれからも、
「光」でなら、安心・安全・快適で豊かな社会を実現し、
見たことのない風景を創り出せるかもしれない……。
そう信じて私たちは今後も「光」をカタチにしていきます。

描く 治す

魅せる

目次

- 1 未来は「光」でおもしろくなる
- 3 沿革
- 5 現在の事業と今後の可能性
- 7 パフォーマンスハイライト
- 9 世界にひろがるウシオ
- 11 社長メッセージ
- 15 価値創造モデル
- 17 中期経営計画(2017～2019年度)
- 19 光源事業
- 21 装置事業
- 23 新規事業
- 25 社会課題解決×未来は「光」でおもしろくなる
- 27 ウシオのCSR
- 31 環境ビジョンと環境行動計画
- 33 取締役
- 34 コーポレートガバナンス
- 37 人材育成
- 39 ダイバーシティ推進
- 41 地域社会とともに
- 43 財務データ
- 45 非財務データ
- 47 株式の状況
- 48 会社概要
- 49 USHIO Report 2018発行にあたって

企業理念

USHIO GROUP
企業理念

①
会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を
一致させること。

②
国際市場において
十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。

③
優れた製品、新しい研究開発を通じ
進んで 社会に貢献すること。

④
オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め
安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

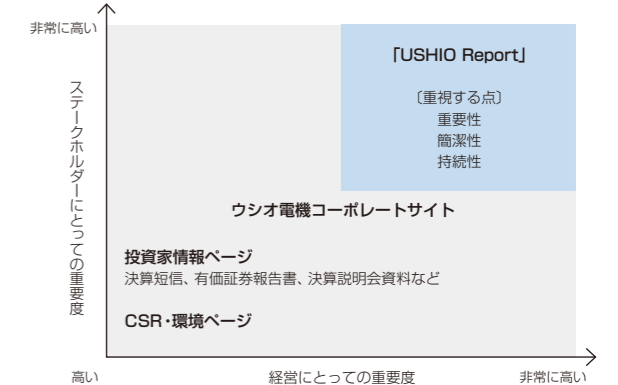
USHIO

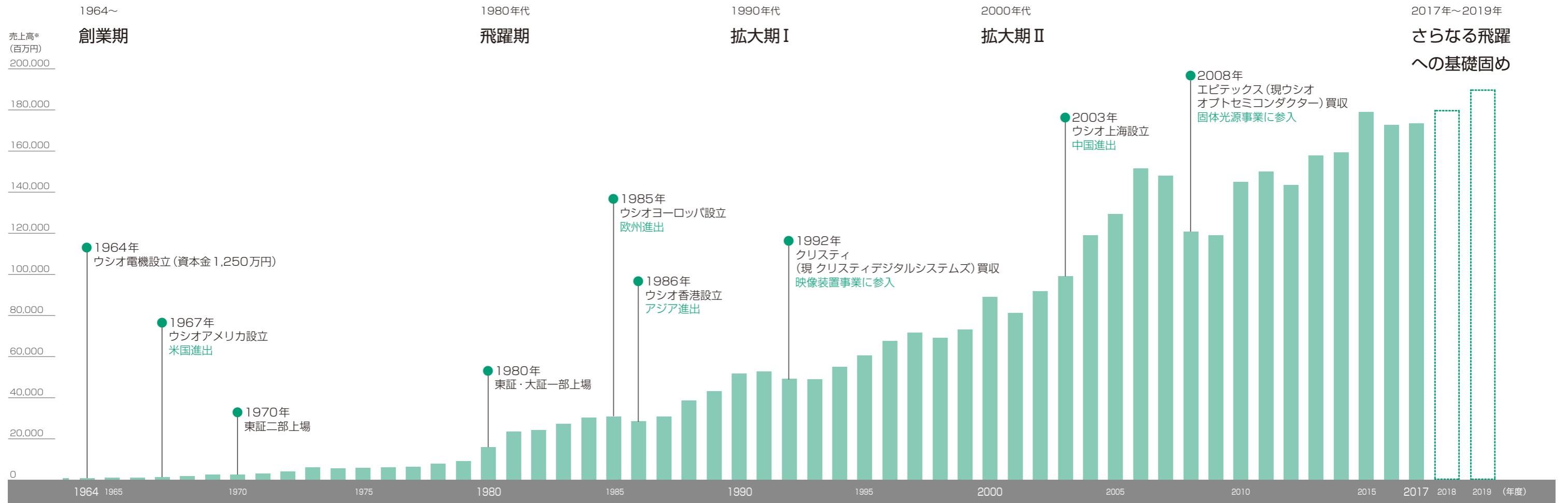
編集方針

ウシオは、以前より事業戦略や財務情報を「アニュアルレポート」、環境や社会に関する取り組みを「サステナビリティレポート」として報告してまいりましたが、2017年度報告分より、これらの情報を統合的に報告する「USHIO Report」を発行することとしました。
「USHIO Report」は、「光」の機能を解明し、カタチにすることで成長してきたウシオのユニークなビジネス展開(モデル)をはじめとする、長期かつ持続的な企業価値向上の可能性をご理解いただくための情報を簡潔にまとめたものとなります。
本レポートを通じて、多くのステークホルダーの皆様がウシオの魅力を感じていただければ幸いです。

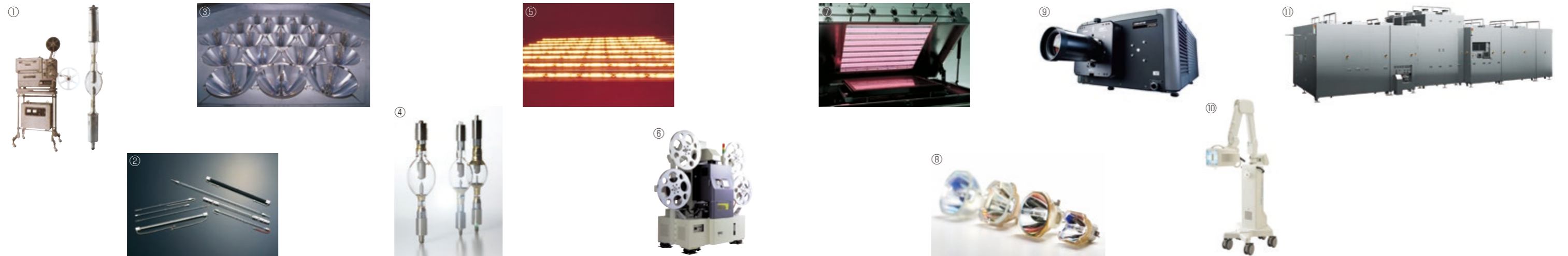
本レポートは、特段の記載がない場合は、すべて2017年度の情報を報告しております。なお、本レポート内はすべて「年度」で表記しており、2017年度は2018年3月期となります。
また、本文中の表記において「ウシオ」はウシオグループ全体を、「ウシオ電機」はウシオ電機(単体)をあらわしています。

「USHIO Report」の位置づけ





※1979年まではウシオ電機単体の売上高



1962年 ①シネマプロジェクター用キセノンショートアークランプ (ウシオ工業 (株))
モノクロからカラー映画への移行に貢献

1964年 ②トナー定着用ハロゲンヒーターランプ
OA化の潮流の中、普通紙複写機の普及に貢献
光の“エネルギー”利用の先駆け

1975年 ③人工衛星試験用大型ソーラーシミュレーター向け光源
宇宙開発計画 (国家プロジェクト) に参画

1979年 ④半導体リソグラフィ用超高压UVランプ
産業用の「光」が加速

1982年 ⑤半導体用ハロゲンヒーターランプ
半導体製造装置に内蔵

1988年 ⑥TAB露光装置
ノートパソコンの普及に貢献

1993年 ⑦パネル洗浄用エキシマ光照射装置
液晶テレビの普及に貢献

1998年 ⑧データプロジェクター用ランプ
データプロジェクターの普及に貢献

1999年 高精細プリント基板用ステップ&リピート投影露光装置

2000年 液晶パネル貼り合わせ用紫外線照射装置 (ODF)

2003年 ⑨デジタルシネマプロジェクター「CP2000シリーズ」
映画のデジタル化に貢献

2006年 ⑩エキシマライト光線療法機器「セラビーム®UV308」
メディカル事業に参入

2011年 ⑪光配向装置
液晶パネルの高精細化に貢献

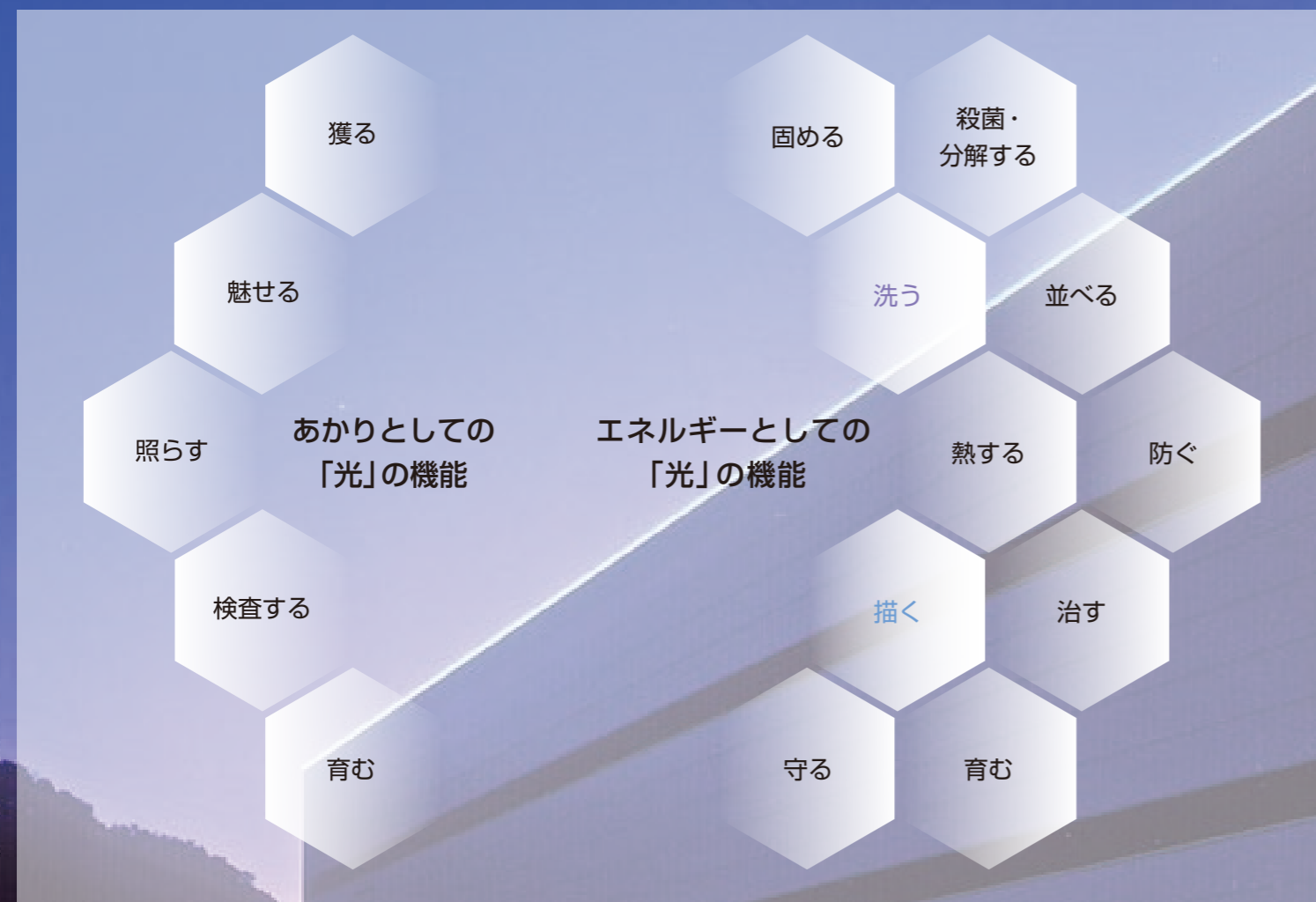
ウシオは「光」の可能性に挑戦し続けます。

解明されている「光」の機能は、まだほんのわずかです。ウシオはこれからも新しい「光市場」を創造していきます。

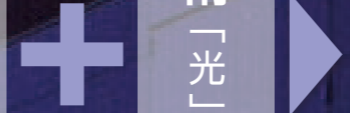
ウシオの「光」



解明されている「光」の機能



ウシオ独自の技術「光」をカタチにする技術



既存事業領域

ウシオは、独自の技術により様々な「光」をカタチにして、エレクトロニクス分野やビジュアルイメージング分野を中心に事業フィールドを拡大してきました。

ビジュアルイメージング分野	
エレクトロニクス分野	

新規事業領域への拡大

これからは、これらの「光」の機能をライフサイエンスをはじめとした新しい事業フィールドへ拡大していくことで、「光で社会に貢献する」という大きな夢をさらに拡大していきます。

ライフサイエンス分野	
------------	--

カタチにした「光」の機能例

光で 洗う

半導体や液晶パネルなどの製造プロセスでは、分子レベルの汚れが性能や品質を左右してしまうことがあります。そのため、ミクロン・ナノレベルの微細加工を行う半導体では、「洗浄」が全工程の1/3を占めているほど。見えない汚れは、見えない光で落とす。ウシオの光技術ならではの洗浄方法です。

光で 描く

スマートフォンやゲーム機、パソコンや家電、自動車など、さまざまなものに搭載されている半導体。半導体の製造プロセスの中で、最も重要といわれているのが、微細な回路パターンをつくる「フォトリソグラフィ」という技術。ナノレベルの小さな世界で、ウシオの光が大きな役割を果たしています。

パフォーマンスハイライト

売上高



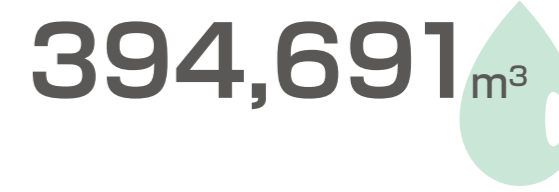
営業利益・営業利益率



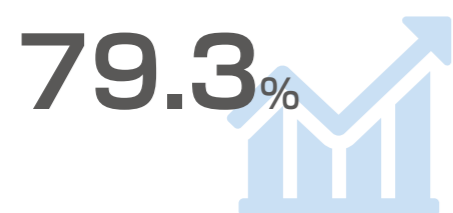
CO₂排出量



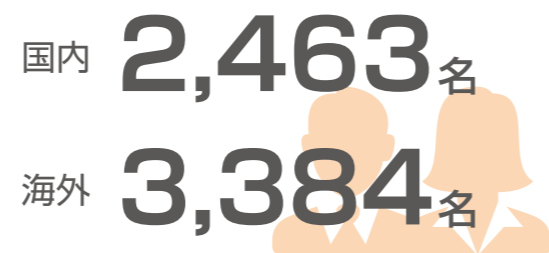
水使用量



海外売上高比率



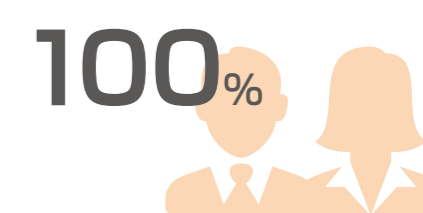
従業員数



廃棄物総排出量



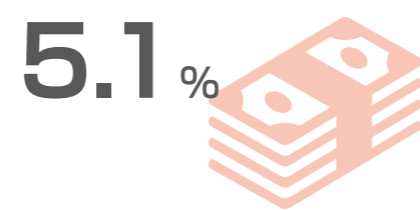
出産・育児休暇後の復職率*



フリーキャッシュフロー



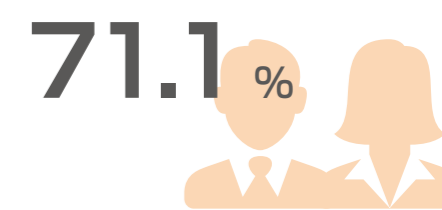
ROE



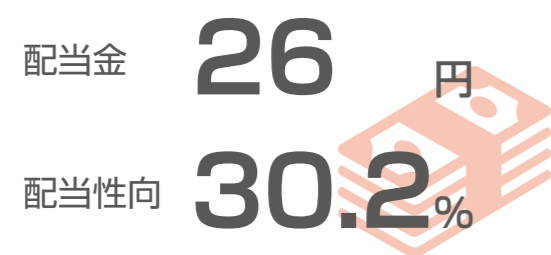
平均勤続年数*



有給休暇取得率*



1株当たり配当金／配当性向



1株当たり当期純利益 (EPS)



月間法定残業時間*

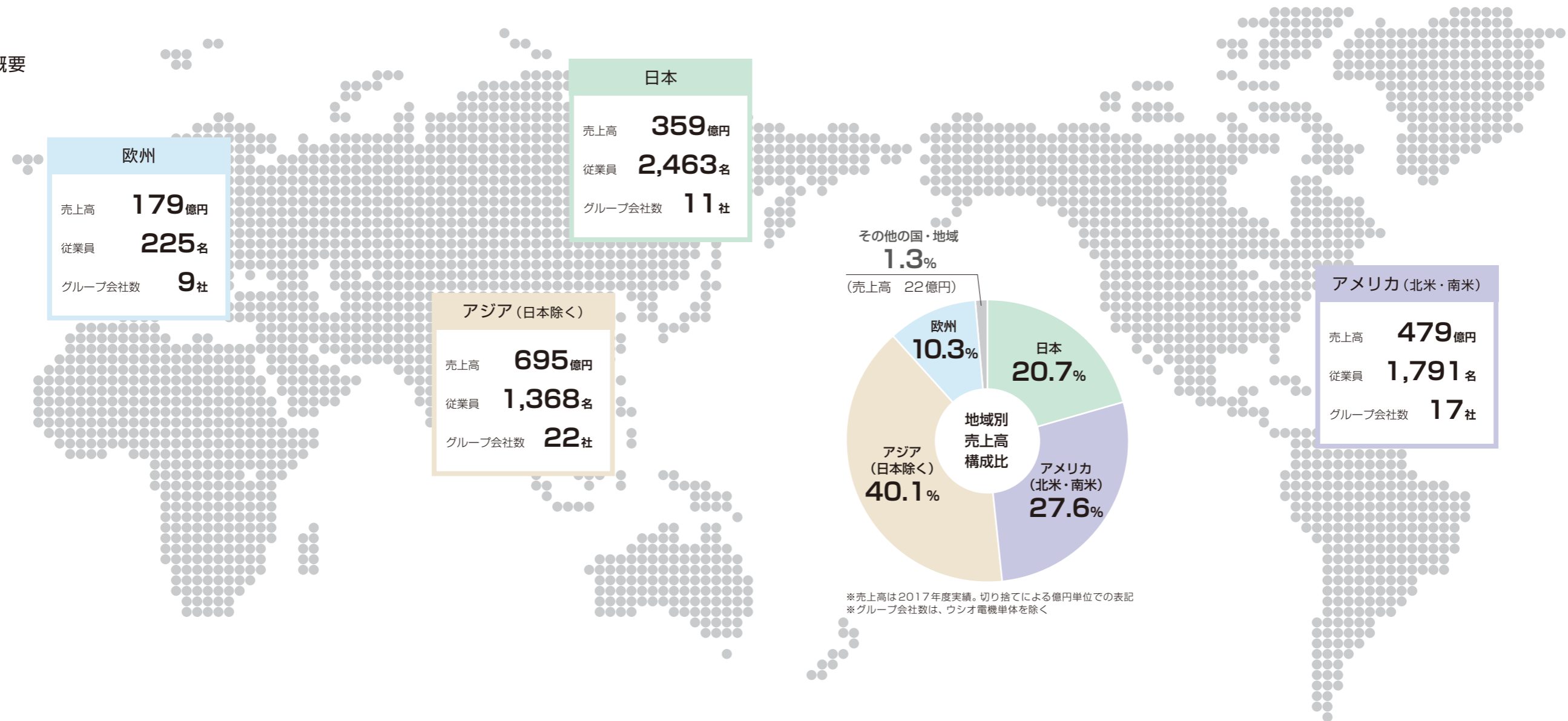


取締役数 (監査等委員含む)*

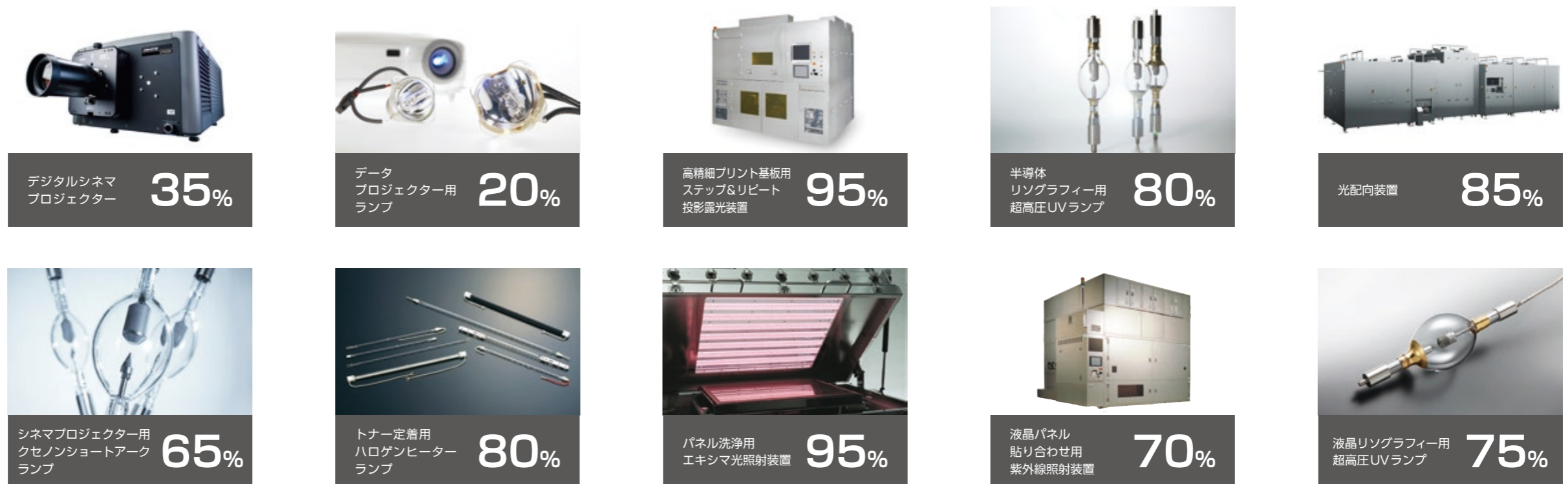


*ウシオ電機単体

地域別概要



主なシェア (ウシオ調べ)





「光」で社会に貢献し、 持続的に成長するため 変革を起こします

代表取締役社長

浜島 健爾

輝いている社員によって支えられた製品やサービスは
お客様によるこびを与える。
だから、ウシオの企業理念は
「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」
からはじまります。

ウシオは、創業当初から「我々だけができる光の専門技術を深め世界の中堅企業になること」を目指して走り続けてきました。そのため、光の専門メーカーとして、世界の“スキマ市場”で1位、2位をとる「トップニッチ戦略」を掲げ、お客様の求める品質や性能を徹底的に追求し実現することで、高い世界シェアを誇る数々の製品を生み出しています。この、徹底的に追求し実現させるという「社員のやり抜く力」は、これまでの成長の原動力であると言えます。

現在、業績は順調に伸長していますが、市場環境の変化への対応や次なる飛躍に向けた第2の創業期と位置付けている中で、今後も持続的に成長するためには、これまでに確立したトップニッチのポジションだけに固執せず、チャレンジャーとして世界の市場に挑む必要があり

ます。この挑戦を成し遂げるには、これまでと同様に社員一人ひとりの力が重要な要素となりますが、これに加えて「創造力や積極性」「チャレンジ精神」が必要になるでしょう。これらを醸成することが、社長としての私の使命であると考えています。

そのために、日本のみならず海外のグループ各社で、社員と本音で話す場を設け、社員の率直な考えを聞くとともに私自身の考えも直接伝えることを繰り返し、正しいことを求めるのではなく、まずは発信すること、そして他者から学び他者とともに考え、行動していくことの大切さを強調しています。この働きかけと同時に、人材育成の制度を整えチャレンジする組織づくりを進めています [Page37: 人材育成](#)。

「光」の可能性は無限大。

その分、ウシオはまだ成長できると確信しています。

「未来は『光』でおもしろくなる」をスローガンに、
これからも安心・安全・快適で豊かな社会を創り出していきます。

2017年5月に発表した3か年の中期経営計画は2年目を迎えました。この中期経営計画は、「次なる飛躍への基礎固め」をテーマとし、既存事業の収益性維持・改善と新たな成長機会の追求のため、内部の課題解決に重点的に取り組んでいます [Page17: 中期経営計画](#)。この「次なる飛躍」には、「未来は『光』でおもしろくなる」をスローガンに、更なる光の可能性を追求し、それをカタチにして社会に貢献する「光のプロフェッショナル」として、安心・安全・快適で豊かな社会を創り出したいという想いが込められています。

「光」には多様な機能があり、ウシオはそれをカタチにすることで様々な社会課題を解決してきました。例えば、「描く」という光の機能は露光装置やその光源に、「洗う」はエキシマ光照射装置とその光源というカタチになり、エレクトロニクス分野でイノベーションを起こしIT化やデジタル化に貢献してきました。また、「魅せる」という機能はシネマプロジェクターとその光源になり、3D映画やプロジェクションマッピングなどの普及に寄与し、世界中の人々を楽しませてきました。これからも、エレクトロニクスやビジュアルイメージング分野の技術革新のために、新製品の開発などに積極的に取り組んでいきます。

ESG指標として評価していただけたことは、

これまでのウシオのCSR活動の成果です。

今後はこれまで以上に、
事業を通じて社会に貢献することに注力します。

ウシオはCSR中期計画を策定し、2010年度からその活動に注力してきました。その間、外部の有識者を招いて勉強を重ねるなどした結果、FTSEやMSCIのインデックスとして選定されるようになりました [Page28: 評価されるウシオのCSR](#)。今後も、企業の社会的責任と

それと同時に、「次なる飛躍」として、今後も「光」で安心・安全・快適で豊かな社会を実現するための事業創出を進めていきたいと考えています。

現在、注目している光の機能は「治す」と「殺菌・分解する」です。これらをカタチにするために、紫外線を使った殺菌や分解効果の検証から製品化まで取り組んでいます。紫外線はヒトやモノに悪影響を与えることもありますが、波長によっては病気を治したり、殺菌したりと人々にとって良い影響を与える紫外線も数多くあります。この光の新しい可能性に着目し、新規事業化に向け日々取り組んでいます [Page23: 新規事業](#)。

新しい事業を創出するにあたっては、自社での研究開発はもちろんのこと、M&Aもひとつの手段であると考えています。ウシオのM&Aにおける基本原則は、「シナジーが期待できる会社に出資すること」です。これまでに実施したM&Aでは、固体光源事業の強化・拡大につながるものや、露光装置のラインナップ拡充といった事業シナジーを創出してきました。これからもシナジー効果を慎重に分析し、投資の判断をしていきます。

してCSR活動を継続するとともに、社会が直面している課題をウシオの光で解決し、持続的な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

現在、ウシオの光技術を駆使して持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献できる可能性のある領域として8つ

を検討していますが、さらに議論と検証を重ね、ターゲットを絞り込み、グループ一体となって取り組んでいくべきだと考えています [Page30: 持続可能な開発目標\(SDGs\)との関係](#)。

持続可能な成長を遂げるためには、ガバナンス体制の充実も必要不可欠です。取締役会の構成はもとより、内部統制やコンプライアンス、リスク管理体制などを整備し経営の透明性確保に努めています。また、制度だけではなく役員および社員一人ひとりの意識づけも重要であるため、研修や勉強会も積極的に行っています。ウシオのグループ経営は子会社を尊重することを軸に置いています。これは放任主義とは異なり、親会社と子会社同士の信頼関係が構築されているからこそ実現できることです。

大きな経営判断には親会社の取締役会で決議するというメリハリを利かせた意思決定を行っているほか、リスク回避はもとより、万が一不祥事が生じた際は、必ず公にして第三者を含めて素早く対処します。そのため、社内での不祥事やハラスメントを公にするために、海外子会社も含めたグループ全体で内部通報制度を設けています。これは弁護士などの第三者のオフィスに通じるようになっており、通報者が安心して通報できるようにするとともに、問題を隠匿せずに早期に把握し対処するための重要な制度です。こういった制度や役員・社員の意識によりリスクを回避することはもとより、生じた有事に対しても対処していきます [Page34: コーポレートガバナンス](#)。

社会課題を「光」で解決するために、変革の真っ最中です。

「光のプロフェッショナル」としての可能性と成長性を
投資家の皆様にご実感していただけるよう、日々邁進します。

ウシオの「光」は地球上の様々な課題を解決する可能性を秘めています。しかしながら、まだそのすべてを業績という形であらわすことはできていません。これを具現化するには、収益性や効率性の改善を図って贅肉を落とし、新しいことに俊敏かつ粘り強く取り組むことのできる筋肉質の企業に生まれ変わる必要があります。現在の中期経営計画は筋肉質に生まれ変わるための基礎固めであり、グループ全体で取り組んでいる最中です。この中期経営計画を達成することが投資家の皆様へウシオの可能性や成長性を実感していただくための第一歩であると信じ、取り組んでいます。

私たちは「未来は『光』でおもしろくなる」を体現し、世界中の人々から価値を認められる企業になることを目指しています。これからも投資家の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーの皆様と社会へ「光」を提供する企業であり続けるため、一丸となって走り続けます。





Input

持続的成長を支える資本

パートナー

「光」の様々な機能を解明し、それをカタチにするためには、大学や研究機関などとの産学官連携が欠かせません。ウシオは、産学官との共同研究などを通じて、社会に貢献する「光」を提供していきます。

人的資本

企業理念にある「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」。これを実現するために多様な人材を取り入れ、様々なイノベーションを生み出し続けています。人材は、ウシオの持続的成長を支える大きな原動力となっています。

詳しくは、Page37～40をご覧ください。

知的資本

「光」の機能を解明し、それをカタチにするために生み出された技術の優位性確保のために、特許の数と質にこだわっています。これからも光の可能性への探究・探索のための研究開発投資と特許の確保により、ウシオの持続的成長を支えていきます。

財務資本

トップニッチ戦略*と付加価値の高い製品の創出により安定的にフリーキャッシュフローを生み続け、これらを原資に将来の持続的成長に貢献する成長投資を継続していきます。

*トップニッチ戦略:光で解決できる領域をいち早く見つけ、誰よりも早くその課題を解決すること

Outcome

社会的価値の創出へ向けて

「光」にはまだ知られていない多くの可能性があると言われてしています。ウシオは、その「光」の機能を探究・探索、解明し、さらに多くの「光」をカタチにすることで、世の中の社会課題を解決し、安心・安全・快適で豊かな社会の実現に貢献しています。

例えば、エレクトロニクス分野では、世界の最先端のものづくりを支え、新たな文化・社会を創造するための光を提供してきました。

また、ビジュアルイメージング分野では、太陽光に限りなく近い光源やより高輝度な光源を提供することで、シネマ業界の進化に大きく貢献しています。

それに加え、ウシオの「光」は、世界各地で行われているイベントや街の景観を彩り、人々を魅了しています。

近年では、長年培ってきた「光」をカタチにする技術を駆使し、人々の健康や地球環境に貢献することで、安心・安全・快適な社会を支えています。痛みや副作用の少ない治療により身体へのダメージを抑えたり、今まで治療できなかった病気を治すだけでなく、病気になるための健康管理や予防に活用できる可能性もあります。また、地球規模での環境問題の解決へ向けた取り組みも始まっています。

これらウシオの価値を持続的に提供していくには、「パートナー」や「顧客」との関係構築は重要です。ウシオは、パートナーや顧客との関係維持を大切に、協働で社会課題を解決し、新たな文化を創造していきたいと考えています。

中期経営計画(2017~2019年度)

ウシオは、2019年度を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画(中計)を2017年5月に策定しました。その概要と、初年度である2017年度の進捗をご報告します。

テーマ

「次なる飛躍への基礎固め」をキーワードに、以下2つの重点施策に取り組み、重要業績評価指標(KPI)の達成を目指します。

重点施策

1. 既存事業の収益性維持・改善

既存市場での競争力強化により利益の確保とシェアを維持

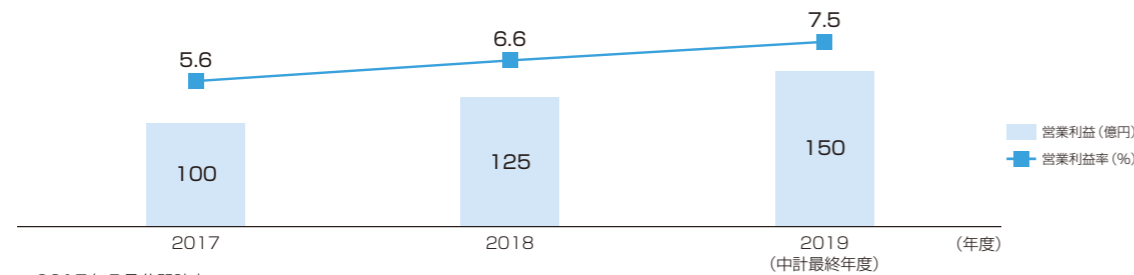
2. 新たな成長機会の追求

ウシオの強みを活かした新規市場開拓・新規事業創出
シナジー重視のM&A投資による新規市場開拓の加速

数値目標(2019年度)

重要業績評価指標(KPI)

営業利益 150億円
営業利益率 7.5%



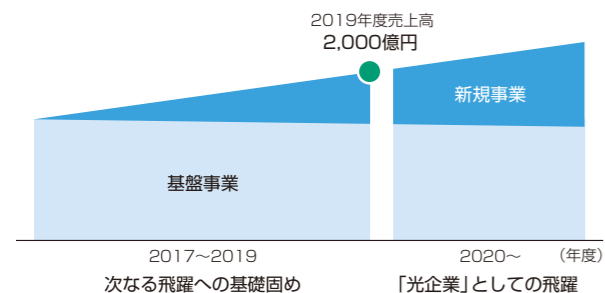
※2017年5月公開時点

今回の中計策定に際して



従来の中計では、為替変動などの外部要因による影響が大きいことから、ローリング方式を採用していましたが、今回の中計は、外部要因に左右されることのない筋肉質な会社への成長を促す体制を築きあげ、公表した目標数値を達成する姿勢を明確にするために、固定方式を採用しました。

ランプのマーケット拡大期は過ぎ、中長期的に成長は鈍化傾向にあると認識しています。そのため、持続的に成長するためには新規事業を創出しなければなりません。「光」にはまだ知られていない多くの機能があります。その機能を解明し、社会課題を「光」で解決していければ、ウシオはまだ成長することができます。



※2017年5月公開時点

詳しくは、中期経営計画(2017年5月11日発表)をご覧ください。

https://www.ushio.co.jp/documents/ir/library/plan/ushio_plan2017_j.pdf



2017年度(中計1年目)の進捗

成果

構造改革の進展

光学装置(装置事業)では、収益性の課題があり、様々な構造改善の取り組みを進めました。利益重視の施策(適正価格での受注や製品の標準化)や生産工程の見直し(ファブライト化やITなどを活用した生産革新)などの取り組みの成果により、収益性は大幅に改善しました。

光源事業では、確かな品質と競争力確保により各市場におけるシェアを維持するだけでなく、安定した収益性を確保していくために、製造拠点でのIT・ロボット化の取り組みを進めました。これにより、不良率の低減やリードタイム短縮などの効果で生産性が向上しました。

2年目以降の取り組み

数値目標

重要業績評価指標(KPI)	中計1年目	中計2年目	中計3年目
	2017年度実績	2018年度計画	2019年度計画
営業利益(億円)	101	125	150
営業利益率(%)	5.9	6.6▶6.9*	7.5▶7.9*

※「売上高」の計画値変更に伴い「営業利益率」が変更となっています。

課題

映像装置の収益低迷

映像装置(装置事業)では、ランプタイプに代わり、蛍光体レーザー光源を使用したプロジェクターが拡大するなど競争が激化し、業績が低迷しました。このような状況に対し、固定費削減を含む抜本的な収益構造改革を実行し、収益性改善を目指します。

スピード不足

新規事業の芽や光学装置でのM&Aなどはありましたが、想定よりスピードが不足しています。当中計後の「光企業」としての飛躍に向け、今後さらに「質」と「スピード」を向上させていきます。

中計1年目の重要業績評価指標(KPI)として掲げた営業利益100億円の目標に対し、実績は101億円(対期初計画値:101.5%)となり、1年目の目標値を達成しました。

また、中計の最終年度(2019年度)の「営業利益」目標として掲げた150億円については変更せず、目標値達成を目指していきます。

「光企業」としての飛躍に向けて

M&A戦略

M&Aを今後の成長に重要な方策と位置づけしており、「光」の新規市場開拓につながるなどのシナジー効果が十分見込めるM&A案件に対し、積極的に取り組みます。

そのために、大型M&Aに備え約400~500億円の投資枠を準備し、実施する場合は、投資有価証券の売却も検討します。

シナジー重視のM&Aとは

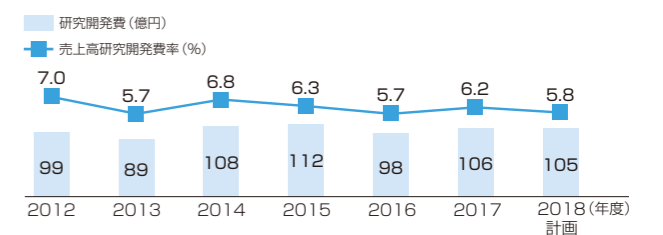
- ・ 新光源(固体光源)対応へのスピードアップに向けた買収
- ・ 既存技術・製品を活用し、新規市場への参入を加速させるための買収
- ・ ソリューション提案型へのビジネスモデル変革に向けた、ウシオにない技術・販売チャネルの獲得のための買収
- ・ 高付加価値製品の開発を加速させる買収

R&D戦略

ウシオの高付加価値製品を支えるために、既存の「光」技術の活用範囲を拡大し、持続的成長につながる研究開発活動を積極的に行います。

ウシオの研究開発投資とは

- ・ 高付加価値製品投入に向けた製品開発
- ・ 産学官連携(共同研究)による新たな波長ニーズの探索
- ・ 固有技術の応用、発展による新規市場開拓
- ・ ウシオの強みであるお客様ニーズに適合した製品開発



詳しくは、2018年3月期 決算説明会資料をご覧ください。

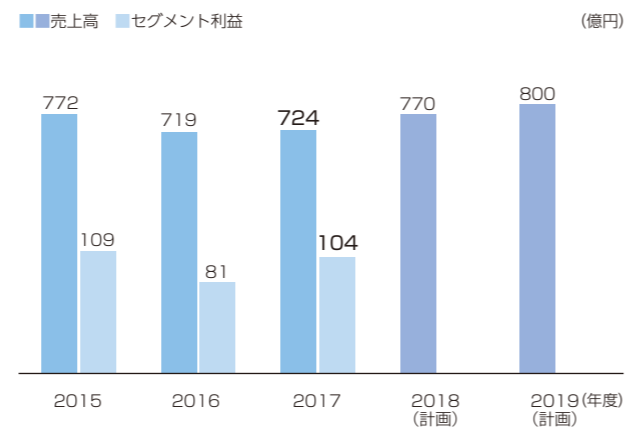
http://www.ushio.co.jp/documents/ir/library/presentation/2017/presentation_pdf_20180510.pdf



事業概況(2017年度)

エレクトロニクス分野においては、半導体・電子部品およびフラットパネルディスプレイの各関連市場で設備投資が拡大しており、各製造工程で使われる超高圧UVランプのリプレイス需要は堅調に推移しました。また、ビジュアルイメージング分野では、照明のLED化のように、シネマ市場においても固体光源(LEDやLD)化が進んでおり、シネマプロジェクターに搭載されるクセノンショートアークランプの需要は縮小傾向にあります。

このように、産業用途でも徐々に固体光源化が進んでおり、ウシオのランプもその影響を少しずつ受けています。これに対応するため、ウシオはM&Aなどを通じて固体光源事業の強化と拡大を進めており、2015年度は110億円であった売上高を、2019年度には170億円まで増加させる見通しです。



主要製品と市場シェア

ビジュアルイメージング

クセノンショートアークランプ

太陽光に近い特性を持つランプで、演色性に優れていることから高輝度プロジェクターなどの光源として幅広く利用されています。

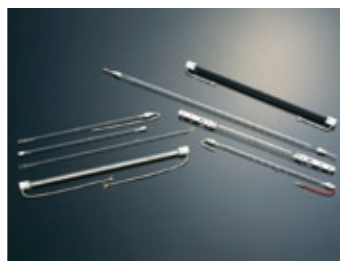
特に、ウシオのデジタルシネマプロジェクター用クセノンショートアークランプは業界最高品質を誇り、世界中の映画館で採用されています。シネマプロジェクター向けの世界シェアは65%です(自社調べ)。



ハロゲンランプヒーター

ランプが放射する光は熱としても活用され、加熱や焼成、乾燥といった用途での熱源として、幅広い分野で利用されています。

特に、ウシオのハロゲンランプヒーターは、複写機およびLBP(レーザービームプリンター)のトナー定着用光源として選ばれています。トナー定着向けの世界シェアは80%です(自社調べ)。



レーザーモジュールおよびLD

高出力なレーザー光源で、プロジェクターや遠隔照明などに利用されています。

特に、子会社で開発・製造・販売しているNECSEL Laser Solutionと高出力赤色LDは、固体光源化が進んでいるデジタルシネマプロジェクター用光源として、多くのプロジェクターメーカーから選ばれています。



エレクトロニクス

超高圧UVランプ

ウシオの超高圧UVランプは、主に半導体や電子部品およびフラットパネルディスプレイの製造で最も重要なリソグラフィー工程に使用される光源で、エレクトロニクス分野における最先端技術の進展に貢献しています。また、装置メーカーとの共同開発体制を背景に、様々な要望に応え、高い評価と信頼を得ています。半導体リソグラフィー用超高圧UVランプにおける世界シェアは80%、液晶リソグラフィー用超高圧UVランプにおける世界シェアは75%です(自社調べ)。



ライフサイエンス

各種光源

ビジュアルイメージングおよびエレクトロニクス分野で活躍しているクセノンショートアークランプや超高圧UVランプは、小型化され、ライフサイエンス分野でも使用されています。それぞれの特性を活かし、ソーラーシミュレーター、顕微鏡、光学実験装置などの光源として幅広く採用されています。



事業戦略

主にビジュアルイメージングやエレクトロニクスといった産業へ特殊光源を提供することに特化するトップニッチ戦略と、お客様のQCD(Quality, Cost, Delivery)の要求に迅速に応じるお客様中心主義で、各市場において高い信頼を得ています。また創業間もない頃から、世界を見据えた事業展開を進めており、世界市場で高いシェアを得ています。

近年は産業分野においても固体光源(LEDやLDなど)化が進んでいます。これらの流れに対し、M&Aなどを通じて固体光源事業を立ち上げ、光の専門メーカーとして様々な用途向けに多くの製品ラインナップを揃えています。これにより、お客様の要望に応じた提案が可能な世界No.1の産業用光源メーカーとして、今後も事業を拡大していきます。

機会

ランプにおいては、医療や環境衛生分野など従来の分野とは違い、固体光源化が容易にできない分野への新しい事業展開をはじめています。

また、固体光源では、固体光源ならではの特性を活かした付加価値の高いソリューションの提供により、既存分野だけでなく、新たな分野への進出もしていきます。

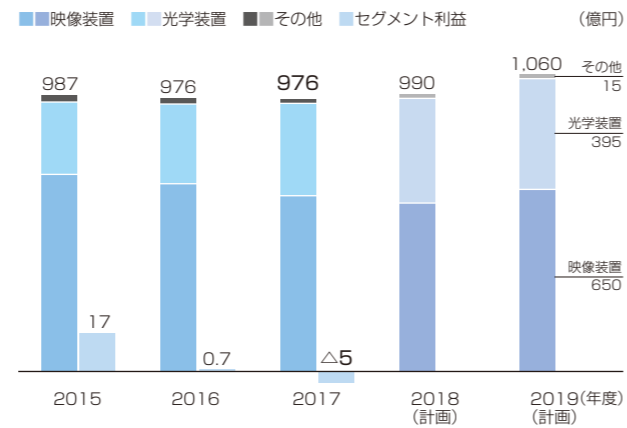
リスク

産業分野における固体光源化により、従来のランプの需要が低減していくことが考えられます。また、ランプ特有の原材料や部品の調達難が生じるリスクがあります。これらのリスクを最小限にとどめるため、安定的な部材の確保を心がけています。

事業概況 (2017年度)

装置事業のうち、映像装置の主要製品であるデジタルシネマプロジェクターは、近年は中国が主な市場となっていますが、競争の激化により、需要は低調に推移しました。これに対し、2018年3月から固体光源化の市場ニーズに対応した高付加価値なレーザープロジェクターの販売を開始し、中国でのシェア拡大を目指しています。

一方、光学装置は、IoTや5Gなどのメガトレンドを背景に各関連市場において設備投資が拡大しており、各種光学装置の需要も増加傾向で推移しました。



主要製品と市場シェア

ビジュアルイメージング

デジタルシネマプロジェクター

映画上映の際に使用されるプロジェクターで、搭載している光源もウシオのクセノンショートアークランプまたはレーザーです。

子会社のクリスティデジタルシステムズは、映写機メーカーとして約90年の歴史を持つシネマ業界の老舗であり、長く市場から高い評価と信頼を得ています。デジタルシネマプロジェクターにおける世界シェアは35%です(自社調べ)。



エレクトロニクス

露光装置

ウシオは、投影方式と直描方式の露光装置を開発・製造しており主に半導体やプリント基板、各種電子デバイスの製造工程に使用されています。搭載している光源も、ウシオの超高圧UVランプやレーザーです。近年、エレクトロニクス分野では、スマートフォンの進化に代表されるように様々な分野で最先端技術の進展が見られますが、スマートフォンなどに搭載される各種電子デバイスの省電力化、小型化などの進化に貢献するなど、ウシオの露光装置は、市場から高い評価を得ています。特に高精細プリント基板用ステップ&リブート投影露光装置における世界シェアは95%です(自社調べ)。



光配向装置

液晶ディスプレイ製造工程の液晶分子を一定の方向に並べる工程(配向制御)で使用される装置で、搭載している光源もウシオのUVランプです。非接触でクリーンな環境で配向制御ができることから、液晶ディスプレイ製造工程の歩留まり改善やコスト削減、液晶パネルの画質向上(高精細化)に貢献しています。光配向装置の世界シェアは85%です(自社調べ)。



ライフサイエンス

エキシマライト光線療法機器「セラビーム®UV308」

紫外線の免疫抑制作用を活用した医療機器です。ウシオのエキシマランプと独自のエキシマフィルターにより治療効果が高く、副作用の低減を実現しました。主に皮膚科領域で使用されています。



事業戦略

映像装置

ウシオの映像装置は、シネマ業界において、これまでに築いてきたお客様との信頼関係と高い技術力、そしてVPP (Virtual Print Fee) という革新的なスキームにより2000年代から本格化したシネマのデジタル化を牽引し、「クリスティ」ブランドとして高い評価を得てきました。

また、シネマ業界のみならず、映像ニーズのある様々な場面において、人々を魅了する視覚体験の実現のため、引き続きイノベーションを起こしています。今後はよりクリアでシャープな映像を多様な環境下で映し出すRGBレーザープロジェクターや、マイクロLEDを使ったLED Video Wallなどの新製品の販売に加え、複数の画像を統合するコンテンツマネジメントシステムを強化し、装置だけではなく映像ソリューション事業を展開していくことで事業を拡大していきます。

機会

映像装置

映像を使うシーンは、各種イベントやアミューズメント施設などのエンターテインメント分野で拡大しています。リアリティーのある映像体験の追求は、HDR (ハイダイナミックレンジ)、HFR (ハイフレームレート)、大型映像を得意とするウシオの映像装置事業にとって今後の成長につながるビジネスチャンスです。プロジェクターだけではなくLED Video Wall、コンテンツマネジメントシステム、ソフトウェアなども含めたソリューション案件の需要拡大が期待されます。

リスク

映像装置

国際的な政治動向や保護貿易主義の広まりはリスクのひとつです。このリスクを最小化するために、サプライチェーンの多角化と現地化を推進しています。

光学装置

産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、1970年代に光学装置の基盤となる要素技術「照明光学技術」と「投影光学技術」を確立し、光源メーカーから光システムメーカーへと進化してきました。これにより世界で唯一、露光装置に必要な光源から、その周辺技術、サポートまでを自社で行うメーカーとなっています。

また、大面積一括投影露光を可能とすることでお客様の生産性を高めるなど、ニーズに適合した提案を可能とし、高い信頼性を得ています。さらに、競争優位性を維持できる半導体後工程や各種デバイス向けなどに特化したトップニッチ戦略により、高い収益性とお客様満足の両立を実現し、高いシェアを獲得しています。近年では、エレクトロニクス分野の投資がアジアや欧米各国へと拡大しており、ウシオのグローバル拠点を活用したマーケティング・営業・サービスを展開するグローバル戦略を進めています。

光学装置

IoTや5Gなどを中心としたエレクトロニクス分野でのメガトレンドの進行により、多種多様な電子デバイスのニーズが高まり、関連業界で投資が活発化することで、ウシオの各種投影露光装置や直描式露光装置などのニーズが高まることが考えられます。また、半導体の最先端技術で用いられるEUV検査用光源の採用も予定されています。さらに、これら光学技術から得られた光機能性部品を開発することにより、医療など、他分野への展開も進めています。

光学装置

構造的に投資循環の波が非常に激しい市場環境であり、持続性を保つことが困難なことから、業績が不安定になることが考えられます。また、メガトレンド (IoTや5G) などの進展により、技術者確保や部材調達などが困難となるリスクがあります。市場の需要変化には引き続き留意していきます。

今中計のテーマである「次なる飛躍への基礎固め」のため、「新たな成長機会の追求」に日々邁進するとともに、当中計後（2020年度以降）を見据え、「『光企業』としての飛躍」のために新しい事業領域へ挑戦しています。

次なる飛躍への基礎固め

「光企業」としての飛躍

光の機能を探求し、カタチにすることで「新たな成長機会の追求」を実現

既存事業で培った強みをベースに、短～中期視点で固体光源、EUVマスク検査用光源、よりハイエンドな映像関連装置の開発を進めています。

ウシオがこれまで解明した光の機能を独自の技術でさらに深化させ、それをカタチにすることで社会に貢献します。

固体光源

固体光源化が進む市場では、ランプを通じて築いてきたお客様との関係を活かし、固体光源のラインナップを拡充して市場の変化に対応しています。また、従来より固体光源が使用されているセンシング、メジャメント、ソーティングなどの分野に進出し、新しい事業機会を創出していきます。



EUVマスク検査用光源

半導体の微細化が進む中、次世代半導体製造工程でEUV露光技術が注目されています。EUV露光技術を量産技術として確立させるために、ウシオはマスクやパターン検査をするための光源の開発に注力し、「検査」の側面から、EUV露光技術という世の中の技術革新に貢献します。



よりハイエンドな映像関連装置

シネマやテーマパークなどのエンターテインメント分野は人々を魅了するため、進化し続けています。ウシオはこれからも映像関連装置の開発に注力し、よりハイエンドな映像を映し出すことで、人々に驚きと感動をお届けします。



「光企業」としての飛躍のための新たな事業領域を開拓

2020年度以降の「『光企業』としての飛躍」のため、中～長期視点で、新しい事業領域の開拓を進めています。特に、環境衛生と先進予防医療の2つの分野に着目し、人々に安心・安全かつ健康で豊かな生活を提供するため、日々挑戦しています。

環境衛生

「光で衛生的な環境に整える」という光の新しい機能を開拓しています。ランプでのみカタチにできる光を使って水や空気をきれいにしたり、人体に無害な紫外線で感染防止をするなど、安心・安全・快適な社会の実現に貢献します。



先進予防医療

早期発見と早期治療のために光でできることを探索しています。ウシオがこれまでエレクトロニクス分野で培ってきた微細加工技術を、バイオチップや光機能性部品の製造に転用し、人々が健康に生活できる社会の実現に貢献します。



世界初、人体に無害な紫外線(222nm)で褥瘡創傷の細菌消毒に成功

ウシオが経営重点課題と捉えている医療や衛生分野での新規事業創出だけでなく、事業を通じた社会課題解決への貢献にもつながる事例をご紹介します。

病床に一筋の光を

床ずれの医学用語である「褥瘡(じょくそう)」とは「褥=ふとん」「瘡=できもの」という意味です。

長期にわたり病床にあり、ふとんなどと接触する部分の皮膚が圧迫され続けて血流が悪くなり、皮膚や皮下組織、筋肉などが壊死してしまうことがあります。ひどい時には、皮下組織や骨などが細菌感染を起こし、死に至る合併症を引き起こすことも。

今も褥瘡に苦しむ患者様は多く、中でも褥瘡や糖尿病性下肢潰瘍などの慢性創傷患者が多い米国では、その治療費は毎年3兆円にも上ると言われており、今後の長寿化によって、さらに増加する可能性が指摘されています。また、慢性創傷の場合、感染症の恐れがあるため、その防止や治療に、抗生物質や抗菌クリームが使用されていますが、近年、多剤薬品耐性菌(MRSA等)など、抗生物質や抗菌クリームでは除去不可能な細菌が増大していること、さらには、抗生物質の使用により薬品耐性菌を新たに作り出してしまうリスクが指摘されています。

「苦しんでいる患者様をウシオの光でなんとかしたい」。そんな想いから研究開発を進めているのが、ウシオの「222nm紫外線殺菌システム」です。米国コロンビア大学との独占ライセンス契約および研究委託契約の締結からはじまったこのプロジェクトは、シンガポール国立大学ヘルスシステム(NUHS)との共同プロジェクトへとつながり、褥瘡患者様の人体に影響を与えることなく細菌を消滅させることに世界で初めて成功しました。



222nm紫外線殺菌システム(左)と光源(右)



紫外線殺菌の可能性は大きい

紫外線の持つ強力なエネルギーを用いた殺菌や消毒の可能性は大きく広がっています。既に手術中の手術部位の消毒は日本や米国で基礎研究が開始されていますし、感染除去や消毒、衛生分野のアプリケーションは多数あります。光のチカラで、世界中の患者様の痛みや苦しみを少しでも和らげることが私たちの使命だと思っています。

222nm紫外線殺菌システムの潜在的用途

- 感染した慢性創傷の治療
- 手術中の手術部位への消毒
- SARS-CoV(サーズコロナウイルス)、MERS-CoV(マーズコロナウイルス)、デング熱、エボラウイルスによる空気伝染および接触感染の抑制
- 手指消毒
- ハンドドライヤー等の機器への殺菌機能の追加
- 芽胞菌・ノロウイルスの殺菌

ウシオの「光」とSDGs

ウシオは、SDGs(持続可能な開発目標)の目標のうち、事業と関わりの深い項目である、「すべての人に健康と福祉を」に特に注力しており、222nm紫外線殺菌システムもそのひとつです。SDGsの達成に向けて、ウシオは光技術で貢献いたします。



「すべての人に健康と福祉を」の中でも、特にウシオと関連するターゲット

2030年までに、エイズ、結核、マラリアおよび顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに、肝炎、水系感染症およびその他の感染症に対処する。

2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および病気の件数を大幅に減少させる。

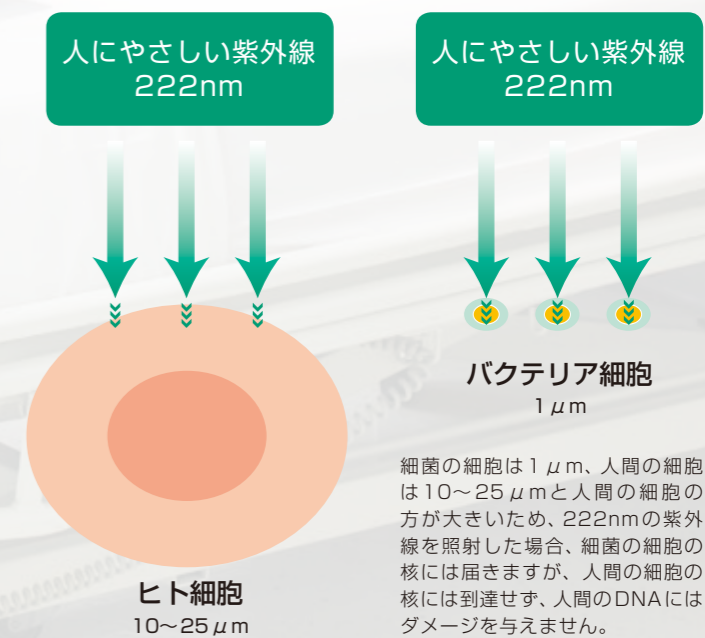
紫外線の中でも、222nmの波長が人体に無害な理由

日焼けや光老化(シミ、しわ)などの原因である紫外線。一般的には人体に悪影響を及ぼすと思われがちですが、必ずしもそうとは限らず、紫外線の波長によって影響度が違います。

実は、殺菌効率は260nm付近が最も効果的なのですが、その場合、人体に大きな悪影響を及ぼしてしまいます。

一方、波長222nmの紫外線は、細菌の細胞の核には届きますが、人間の細胞の核には到達せず、人間のDNAにはダメージを与えないため、発がん性物質の出現などの悪影響を及ぼしません。

なお、波長が222nmより短いと、消毒の効率が悪くなるだけでなく、使用環境が真空である必要があることや、付帯設備が必要となるため、222nmが紫外線による殺菌・消毒には最適な波長となります。



ウシオの理念とCSR経営

ウシオは光技術を用いた製品やサービスを通じて、様々な社会課題の解決や持続可能な社会の実現を目指しています。CSRは事業活動の経営基盤であることはもちろん、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを通じて良好な関係を構築し、地域や社会とともに持続的に発展するための原動力のひとつであると捉え、多様な活動を行っています。また、社会の一員として、その責任を果たすことを社員一人ひとりが自覚するため、企業理念や行動指針にもその考えを展開しています。

USHIO GROUP

企業理念

- ①
会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を
一致させること。
- ②
国際市場において
十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。
- ③
優れた製品、新しい研究開発を通じ
進んで 社会に貢献すること。
- ④
オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め
安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

USHIO

USHIO GROUP

私たちの行動指針10

1. 私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます
2. 私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての永続的な発展に努めます
3. 私たちは、明るく安全快適な職場環境を作ると共に、国際規範に基づき、事業活動すべてに関わる基本的人権を尊重します
4. 私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行います
5. 私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます
6. 私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行います
7. 私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行します
8. 私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます
9. 私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します
10. 私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します

USHIO

「国連グローバル・コンパクト10原則」の支持

ウシオは、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支援を表明しています。

2015年9月に国連で「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択され、社会課題への関心が高まる中、多くの加盟企業やNGOとともに、各CSR要素の推進のために必要な具体的施策の情報共有および各企業での充実を図る分科会活動への積極的な参加を継続しています。



評価されるウシオのCSR

ウシオは、「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」、「FTSE Blossom Japan Index」という、世界最大の年金運用機関であるGPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) が採用する3つのESG (環境、社会、ガバナンス) 指数すべてに選定されています。これは、投資期間が長期にわたるほどリスク調整後のリターンを改善する効果が期待されるとするESG投資において、ウシオの環境、社会、ガバナンスの取り組みが評価されたものです。

ウシオは今後もこれらの取り組みを積極的に進め、企業価値の向上に努めるとともに、将来にわたって持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

CSR経営に対する評価

FTSE Russellが作成管理するグローバルな社会的責任投資指数「FTSE4Good Global Index」に、15年連続で選定されています。また、ESG対応の優れた日本企業のパフォーマンスの指標である「FTSE Blossom Japan Index」にも2年連続で選定されています。



「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」は、MSCIジャパンIMIトップ500指数構成銘柄の中からESG評価に優れた企業が選定されるもので、「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」はMSCIジャパンIMIトップ500指数構成銘柄の中から、MSCI社が新たに開発した性別多様性スコアに基づいて業種内で性別多様性に優れた企業が選定されます。ウシオはともに、2年連続で選定されています。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 (SNAM: エスナム) が設定する2018年度「SNAMサステナビリティ・インデックス」は、ESGに優れた約300銘柄に投資する年金基金や機関投資家向け運用プロダクト「SNAMサステナブル運用」に用いられており、ウシオは、環境、社会、ガバナンスの取り組みが評価され、2012年から7年連続で選定されています。



報告に対する評価

ウシオは「第21回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門の優良賞を受賞しました。これは、「サステナビリティレポート」の内容や目標設定手法が評価されたものです。

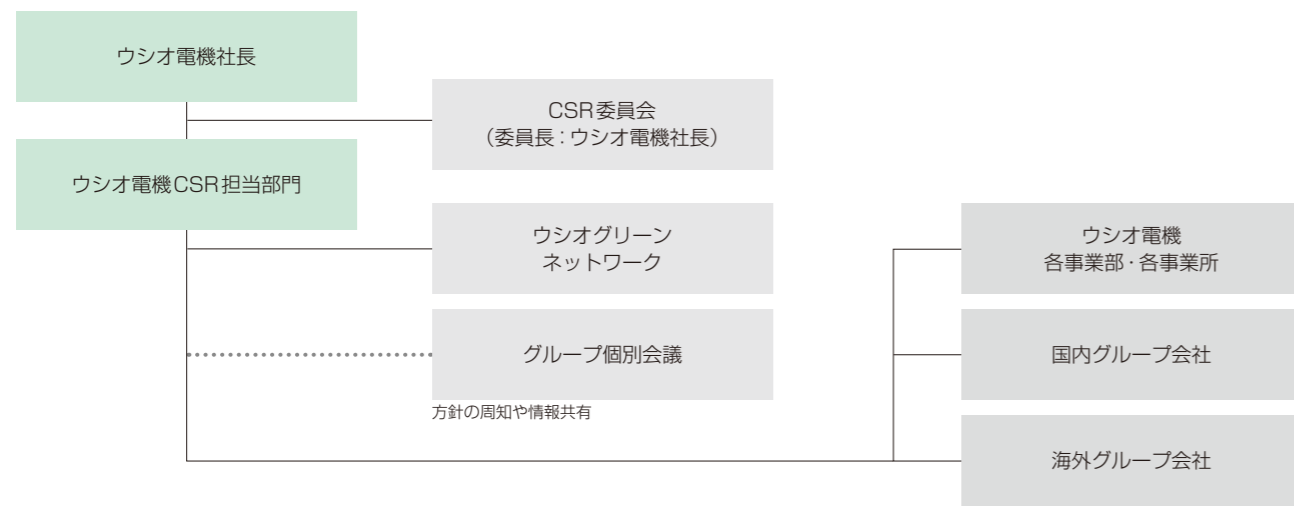


CSRマネジメント

CSR推進体制

ウシオ電機の代表取締役社長を委員長としたCSR委員会を設置し、CSRへの取り組みに関わるグループの方針を決定しています。この方針に従い、課題別委員会やウシオ電機のCSR担当部門が各事業部・各事業所やグループ各社に計画を展開しています。また、ウシオグリーンネットワークやグループ個別会議を通じて、周知や情報共有を行っています。

CSR推進体制図



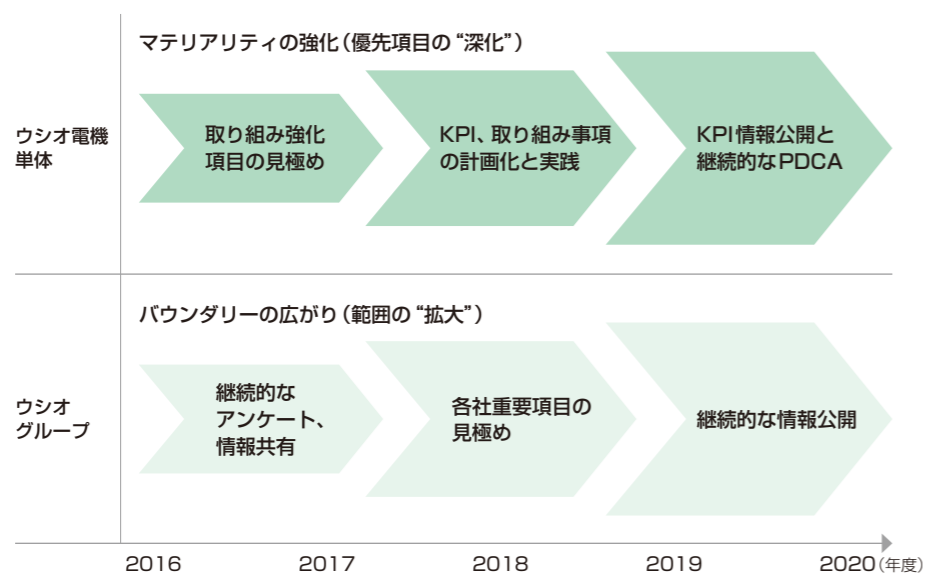
CSR中期計画

ウシオは2016年度に、CSR活動をさらに活性化させ、企業としての発展と社会性の向上の両立を目指すため、新たなCSR中期計画の枠組みを構想しました。

このCSR中期計画には、2020年度をターゲットとして、事業と社会貢献の両立に有効な重点実施事項に注力していく「深化」と、これまでウシオ電機を中心に推進してきたCSR活動の枠組みを、グループ全体に「拡大」させるという2つの軸があります。

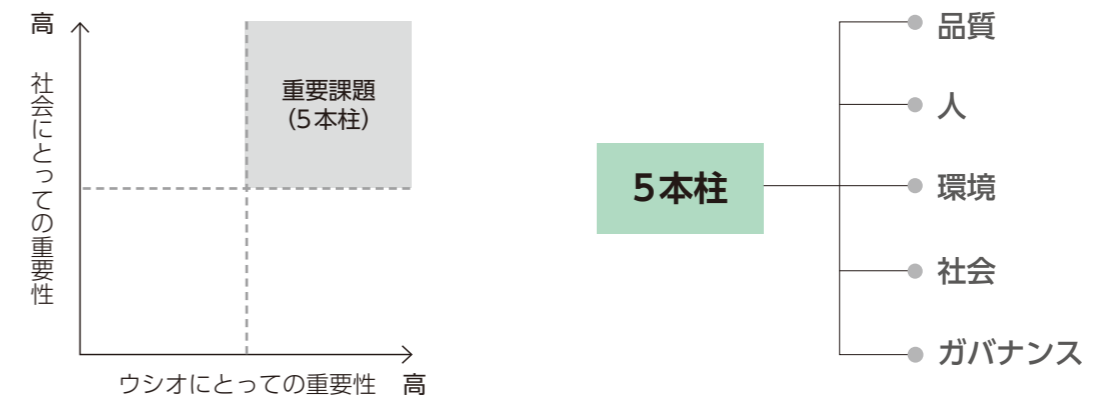
これまでの取り組み内容を継続し、強化していくことはもちろん、ウシオの発展だけではなく社会への貢献につながる活動に注力することや、グローバル化が進むウシオの姿に合ったCSRマネジメントを推進していくことが、持続的発展のために不可欠だと考えています。

CSR中期計画のロードマップ



マテリアリティの特定

2010年度から、サプライヤーとの対話や社員へのヒアリング、ISO26000発行動向、事業の重要性などに基づき、環境委員会（現CSR委員会）において企業価値向上のための重要課題（マテリアリティ）について協議と見直しを重ね、現在の5本柱を特定しました。



持続可能な開発目標（SDGs）との関係

2015年9月、国連サミットで、貧困や不平等・格差、気候変動のない持続可能な世界の実現に向け、2030年までの目標を示した持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が採択されました。

ウシオでは、SDGsが示す17の目標のうち貢献できる可能性のある領域として下の8つを検討しており、光のプロフェッショナルとしてこれまで培ってきたノウハウを活かし、社会課題の解決につなげる取り組みを行っています。

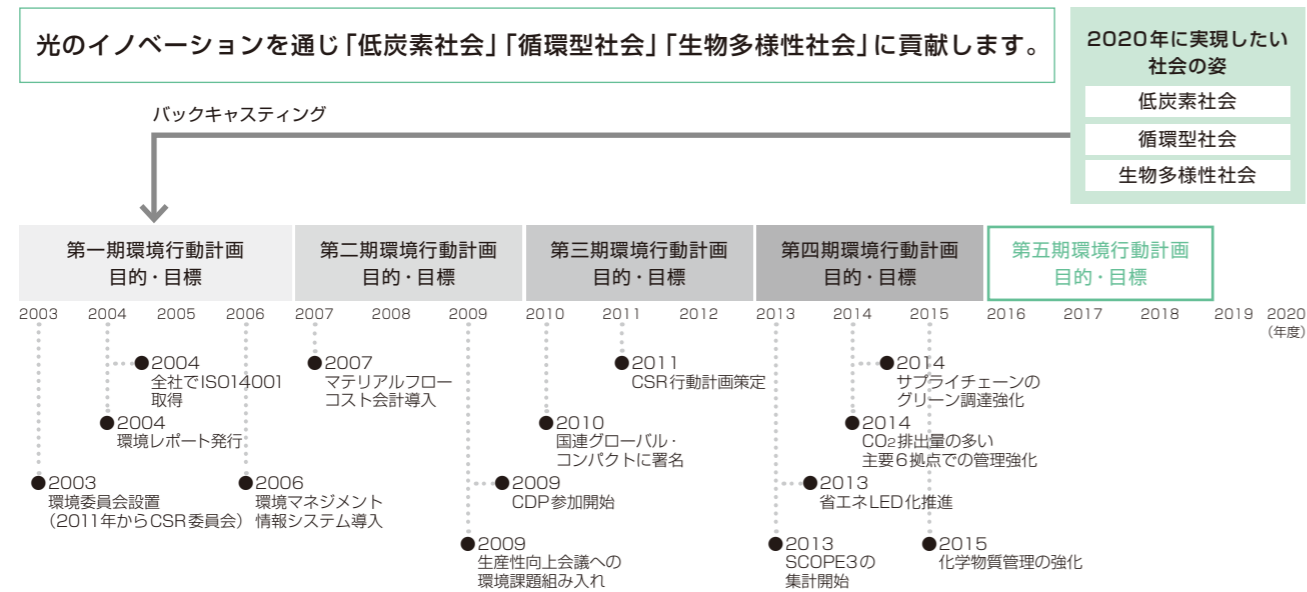
特に、光の持つ様々な特性をさらに医療や衛生の分野にも活かすことができると考え、第3の目標「すべての人に健康と福祉を」に最も注力しています。



2020年環境ビジョン

ウシオでは、2020年に「低炭素社会」「循環型社会」「生物多様性社会」の3つを実現することに貢献するため、これらを「2020年環境ビジョン」として掲げ、環境行動計画を策定しました。「2020年環境ビジョン」の最終年に向けて2016年度から第五期環境行動計画を展開しています。また、2030年に向けたビジョンの検討も行っています。

2020年環境ビジョン



第五期環境行動計画

第五期環境行動計画は、「2020年環境ビジョン」からのバックカスティングや第四期環境行動計画での課題、データ分析など多くの要素を考慮し策定しました。第五期環境行動計画では、これまで進めてきた「環境配慮型製品の開発」「事業活動でのCO2排出量削減」「CSR調達」「資源循環」を引き続き柱としています。これに加えてISO14001の2015年版移行に伴う活動として、形骸化の排除や効率的・実務的運用がなされるような取り組みを追加しました。特に、「環境配慮型製品の開発」の考えの中に、環境だけでなく安心・安全という社会要求の要素を加え、企業価値を高める計画としています。

第五期環境行動計画5つのテーマ

ISO14001 マネジメントシステム	環境・社会貢献型製品の開発	事業活動でのCO2排出量削減	CSR調達	化学物質管理・資源循環・生物多様性保全
目標: ISO14001:2015年版への移行完了	目標: 安心・安全かつ環境配慮型ソリューションの提供	目標: 売上高原単位 2015年度比 3%削減	目標: CSR調達のグループ推進	目標: 化学物質管理の強化
①法規制情報の共有 ②各社ISO改善課題への取り組み(形骸化の防止、有効性の向上、内部監査の徹底など)	①環境だけでなく社会貢献度も考慮した指標の開発と評価実施 ②装置製品やLED製品のRoHS対応	①主要サイトの施策管理 ②事業変化に応じた状況把握 ③自主的削減(その他のサイト)	①CSR調達調査の実施・分析 ②「ウシオグリーン調達基準」の運用 ③製品含有化学物質情報の共有化 ※CSR調達調査を効率良く行う	①化学物質の入り口から出口までの管理を強化する ②法規制情報の共有 ③水資源使用量の削減と水リスクの評価 ④生物多様性保全への取り組みは各テーマの中で実践する

委員会・事業所活動を中心として活動を推進



*3R: Reduce (リデュース: 廃棄物の発生抑制)、Reuse (再利用)、Recycle (リサイクル: 再資源化)の頭文字をとったもの

第五期環境行動計画の展開状況

第五期環境行動計画の2年目を終えた段階で、概ね順調に進捗していますが、事業活動でのCO2排出量削減についてはまだ多くの課題が残っています。また、CO2排出量の削減については、原単位での削減だけでなく、SBT (Science Based Targets) *に沿った目標設定の検討も行っています。

*パリ協定に定められている、産業革命時期比の気温上昇を2℃未満にするための「2℃目標」に向けた、科学的知見と整合した削減目標。この設定を推進するのが、WWF (世界自然保護基金)、CDP (カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)、WRI (世界資源研究所)、国連グローバル・コンパクトによる共同イニシアティブである。

詳しくは、当社ウェブサイト「環境行動計画」のページをご覧ください。

<https://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html>

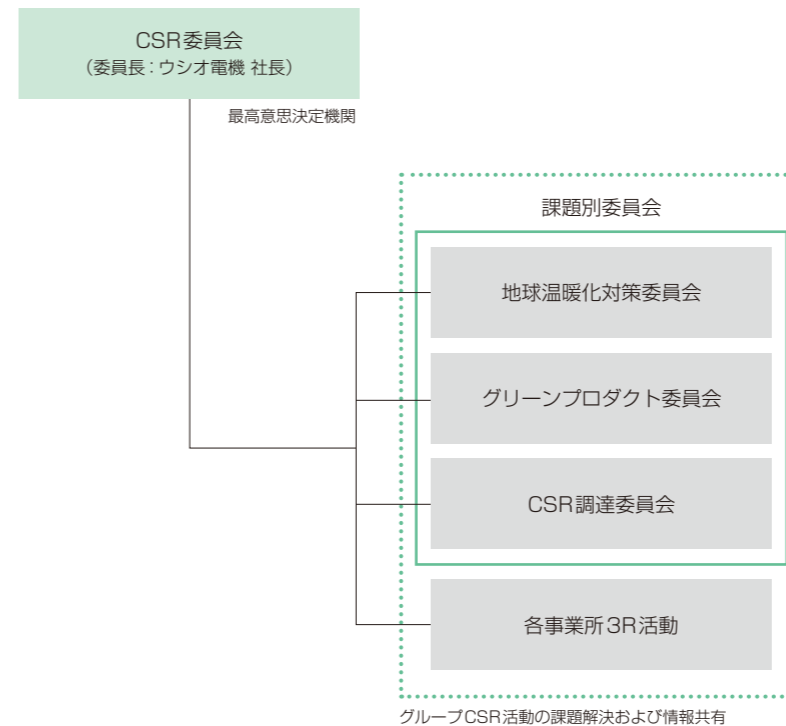


環境活動推進体制

ウシオ電機の「CSR委員会」は社長を委員長とし、ウシオの環境への取り組みに関する最高意思決定機関として位置づけています。CSR委員会の直下には課題別委員会があり、各事業部・各事業所やグループ各社での現場レベルでの取り組みの方向付けを行っています。

これら、自発的な環境活動により、第五期環境行動計画を推進しています。

環境活動推進体制図



牛尾 治朗
代表取締役会長



浜島 健爾
代表取締役社長



牛尾 志朗
取締役



伴野 裕明
取締役



原 良也
社外取締役



金丸 恭文
社外取締役



橘・フクシマ・咲江
社外取締役



小林 敦之
取締役
(常勤監査等委員)



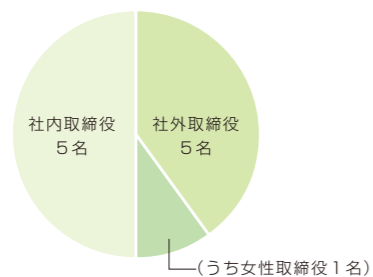
米田 正典
社外取締役
(監査等委員)



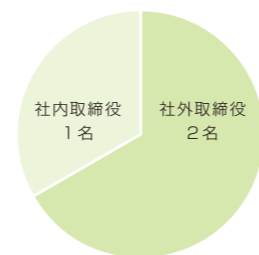
山口 伸淑
社外取締役
(監査等委員)



■ 取締役会



■ 監査等委員会



ウシオ電機は、企業理念に掲げた目指すべき姿を実現し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上が、すべてのステークホルダーの満足につながると認識しています。

これを実現するために、企業経営の透明性と効率性の確保、また迅速・果敢な意思決定を実現するコーポレートガバナンスの強化に努めていきます。

コーポレートガバナンス体制

ウシオ電機は、監査等委員会設置会社の体制を採用しています。

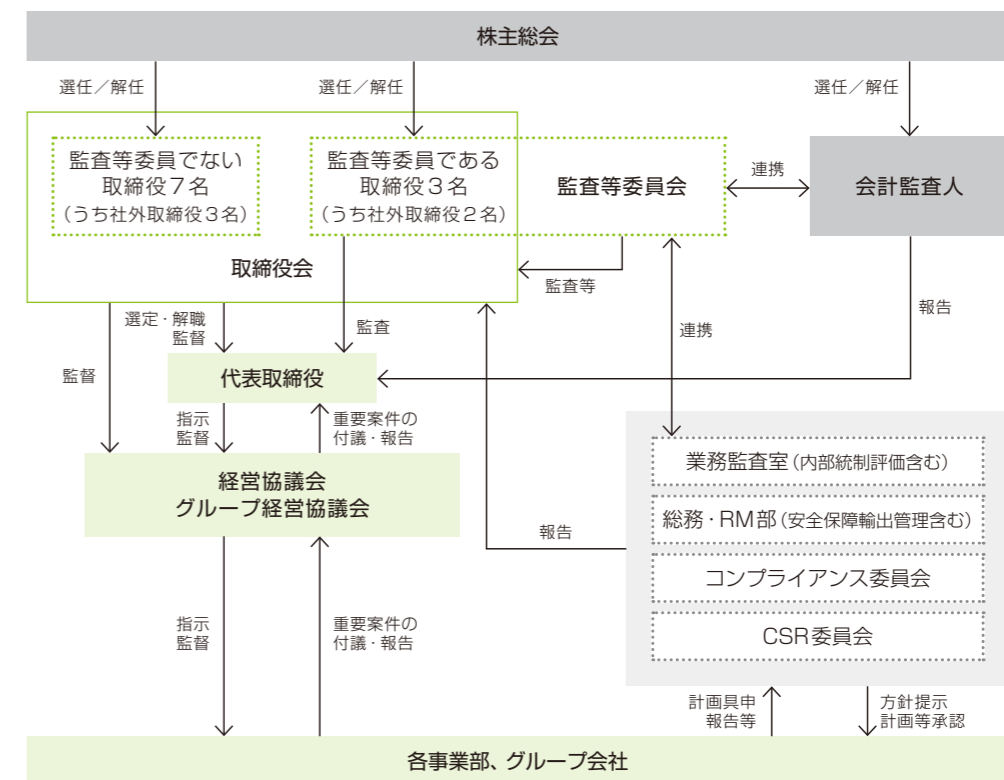
これは、重要な業務執行の一部の決定を、業務執行を担う取締役へ委任することによる意思決定の迅速化を推進する一方で、取締役会の半数を社外取締役で構成することにより監督機能を強化するとともに、取締役の職務の執行の適法性および妥当性を監査する権限を有する監査等委員会を設置することによって監査・監督機能の強化を図るためです。

取締役会については、取締役(監査等委員である取締役を除く)7名(日本人男性6名、日本人女性1名、うち社外取締役3名)と監査等委員である取締役3名(全員が日本人男性、うち社外取締役2名)の計10名で構成され、経営の基本方針等の最重要事項に関する意思決定および業務執行の監督を担っています。

業務執行については、重要な業務執行の一部の決定を業務執行を担う取締役へ委任することにより、意思決定の迅速化を推進するとともに、執行役員制度により確実かつ迅速な業務の執行体制を構築しています。また、経営協議会やグループ経営協議会を設置し、業務執行に関する重要事項の審議・報告を行っています。

監査等委員会については、監査等委員会の定める監査等委員会監査等基準に従い、取締役の職務執行状況についての監査等を行っています。なお、取締役(監査等委員である取締役を除く)および社員からの情報収集、ならびに内部監査部門および会計監査人との連携を円滑に行い監査等の実効性を高めるため、常勤の監査等委員1名を選定しています。

ウシオ電機内部統制図



コーポレートガバナンス・コードへの対応

ウシオ電機は、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」の各原則について、すべてを実施しています。

詳しくは、当社ウェブサイト「コーポレートガバナンス報告書」をご確認ください。

<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/governance/>



取締役会の実効性評価

ウシオ電機では、個々の取締役に対して取締役会の構成、運営状況、審議事項等に関するアンケートおよびインタビューを実施し、取締役会の実効性について分析・評価を行っています。2017年度における分析・評価の結果として、取締役会としての実効性は概ね確保されていると判断しています。

一方で、今後も引き続き取り組むべき課題として、情報提供および審議のさらなる充実が挙げられ、取締役会として確認共有しています。これらの改善に向け継続的に取り組んでいきます。

役員報酬の考え方

報酬体系としては、役位に応じた基準額および業績・職務評価に応じて決定される額から構成される金銭報酬および株式報酬により構成されています。

なお、これらの報酬に係る取締役会決議にあたっては、あらかじめ報酬の体系および水準ならびに業績への貢献度評価について公平性および妥当性を確保する観点から、委員長および半数以上の委員を社外取締役で構成する報酬諮問委員会の審議を経ることとしています。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)					対象となる 役員の員数
		基本報酬	ストック オプション	賞与	役員向け 株式報酬	退職慰労金	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	257	207	-	-	50	-	4
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	27	27	-	-	-	-	1
社外役員	56	56	-	-	-	-	7

(注) 役員向け株式報酬は、日本基準により2017年度に費用計上した金額を記載しています。

内部監査および監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、常勤の監査等委員1名を含む3名で構成されており、取締役の職務執行状況の監査等を実施する体制整備を行っています。

内部監査部門である業務監査室は、業務管理や業務手続の妥当性などの監査を実地での監査を基に行っており、監査等委員会に対して年間の監査計画書を提出して具体的な監査方針を説明するとともに、内部監査結果の報告を適宜行います。

会計監査人は、監査等委員会に対して年間の監査計画書を提出して具体的な監査方針を説明するとともに、四半期・期末決算における四半期レビュー・会計監査の際にはレビュー・監査結果の要旨の報告を行います。

監査等委員会、業務監査室および会計監査人は、情報交換、意見交換を実施し、相互連携を図っています。

コンプライアンス

ウシオ電機は、全社員が法令、定款および企業理念を遵守した行動をとるための行動指針として「私たちの行動指針10」を定め、その徹底を図るためコンプライアンス委員会を設けています。業務監査室はコンプライアンス委員会と連携のうえ、状況を監査し、適宜取締役会および監査等委員会に報告します。さらに、取締役の職務執行に係る情報は文書または電磁的媒体に記録・保存、管理します。取締役が常時閲覧でき、適時適応できる体制をととのえています。

また、コンプライアンス意識の醸成を図るため、グループ各社にも行動指針などを共通で準用・活用し、業務監査室がグループ会社の監査を実施しています。

リスク管理

ウシオ電機は、リスク管理規程においてコンプライアンス、環境、品質、財務、法務、災害、情報および輸出管理などのリスクの種類ごとに責任部門を定め、各責任部門において規則やガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成や配布などを行うものとし、新たに生じたリスクについては速やかに対応責任者となる取締役または執行役員を任命することを定めています。また、リスクが現実化し、重大な損害の発生が予測される場合は、担当取締役または執行役員は速やかに取締役会に報告することとしています。

ウシオ電機では、企業理念にある「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」の実現に向け、「人事ビジョン」を掲げています。
また、社員に求める人材像・人材要件を明文化し、体系的な育成に取り組むことで、社員一人ひとりおよび会社の成長を加速支援しています。

人事ビジョン

“喜び”と“驚き”を生み出す輝く集団

一人ひとりがプロフェッショナル

常に共にある仲間

「見ていてくれる」という安心

人材像・人材要件

「志」と「情熱」を持ち、多様な価値観を尊重し、
協働・挑戦し続けるプロ人材

行動

- **顧客志向力**
顧客ニーズを超えて、真の価値を提供できる力
- **課題設定力**
事実を正しく捉え、本質的な課題を見抜き、解決策を立案できる力
- **目標実現力**
目標の実現に向けたプロセスを組み立て実現する力
- **巻き込み力**
他者を巻き込み、シナジーとスピードをもって実行する力
- **学習する力**
自己成長する努力に加え、他者を支援（育成）し共に学ぶ力

マインド

- **粘り強さ**
時にはリスクをとる覚悟を持ち、最後まであきらめない姿勢
- **柔軟思考**
常識を疑い、従来のやり方に固執せず、変化・多様性を受け入れる姿勢
- **挑戦意欲**
失敗を恐れず、当事者意識をもって取り組む姿勢
- **尊敬・尊重**
利他精神をもち、相手のことを慮り信頼関係を築く姿勢

ウシオ電機の育成（研修体系）

ウシオ電機では「仕事を通して社員は成長する」ことを前提として、人材像・人材要件に根差した育成体系を構築しています。新人研修や昇格時研修などの必須研修に加え、異業種研修や社内公募制等、自ら手を挙げて学び、チャレンジできる機会を提供しています。

選 抜

次世代リーダー育成

- 経営人材育成（サクセッションプラン）
- ヤング・エグゼクティブ・グループ
- 異業種研修

選 択

グローバル人材育成

- トレーニー制度
- 留学制度
- 語学力強化サポート制度

必 須

ビジネスリテラシー

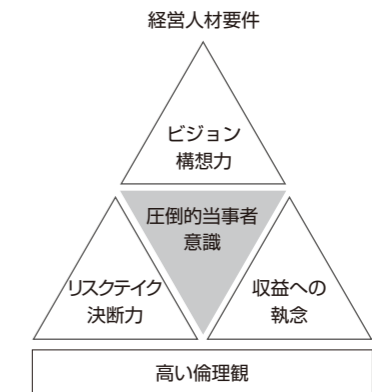
- 新人研修/新人フォロー研修
- 3年目研修
- 昇格時研修（問題解決力、ファシリテーション、戦略立案等ビジネススキル研修を含む）

キャリア支援

- キャリアシート/異動希望申請
- 社内公募制
- 自己啓発費用補助

経営人材育成

ウシオの持続的成長の実現に向け、次世代経営者の育成に力を入れています。
育成施策の有効性・価値向上に資することを目的として、2017年10月に「指名育成諮問委員会」を発足させました。
経営人材要件を軸とした候補者人材の選抜・育成計画の策定・育成施策の実行・アセスメントを通して、計画的・継続的な育成を実現します。
具体的には「候補者の育成計画をふまえた異動・アサインメント」「社内重要会議体への参加」「メンター制度の実施」「社外研修への派遣によるビジネスリテラシーの獲得および異業種交流」などに取り組んでいます。



ヤング・エグゼクティブ・グループ

将来の経営人材の育成を目指す制度のひとつです。
メンバーはウシオに属する20代・30代の若手社員から公募を経て選定されます。志と情熱・戦略構築力・実行力・グローバル対応力の4つを目標要件として、経営戦略などのビジネススキルの習得および現状の経営課題把握と施策の提案など、具体的な取り組みを行います。役員や外部の経営者・専門家の方々と意見を交わしながら活動を行っており、高い志を持つ若手社員へキャリアパスを考える機会を提供しています。



ウシオ電機は、多様な人材による価値創造を実現するため、ダイバーシティの推進に注力しています。ワークライフバランスやグローバルな人材活用、障がい者雇用の促進、再雇用制度、女性活躍の推進など、様々な取り組みを通じて、「喜び」と「驚き」を生み出し、持続的に成長し続ける」ことを目指します。



ダイバーシティの基本方針

ウシオ電機におけるダイバーシティの意義は「喜び」と「驚き」（新しい価値）を生み出し、持続的に成長し続ける」ことです。その実現に向けた基本方針として「一人ひとりに焦点をあてた経営」を掲げています。

社員一人ひとりが自身の思いや考えを発信し、相互に受容・尊重することで理解を深めることが重要と考えます。また事業・職場の状況や社員の多様性が進む中、一律のルールだけに囚われず、組織と社員にとって理想的な形は何かを第一義として具体的な施策や取り組みを実施しています。

“喜び”と“驚き”を生み出し、持続的に成長し続ける

「事業の競争力向上」

- 多様な価値観・背景を持つ人材の協働により、新たな価値が生み出される
- 生産性が高く、効率的な事業運営が実現できる

「社員のモチベーション向上」

- 社員一人ひとりの創造性が高まり、能力を最大限発揮できる
- 違いを認め、尊重しあえる風土の中で安心して挑戦できる

「社会で活動する使命」

- 社会と共存し尊敬される会社であり続ける

ダイバーシティ推進に向けて

「一人ひとりに焦点をあてた経営」のより一層の推進を目指し、ウシオ電機では2017年7月、ダイバーシティ推進プロジェクトを立ち上げました。プロジェクトでは、ダイバーシティに関心のある社員を募集し、経営・人事・社員が一体となり、活動しています。社員に参画してもらうことにより、当事者の意見を取り入れた、現場感を持った活動になると考えています。また、この取り組みは、経営人材を育成することにもつながります。

取り組み内容

働き方改革

柔軟な働き方の拡充

「スピーディで無駄なく効率の良い『働き方』」「多様な思考・創造力を高める『働き方』」の実現により、生産性の向上、イノベーションの創出を目指しています。また、これらに伴い、社員の「セルフマネジメント力の向上」「モチベーションの向上」につなげていきたいと考えています。まずは、在宅勤務制度導入の検討のためのトライアルを実施しています。



仕事と介護の両立支援

仕事と介護の両立セミナー

ダイバーシティ推進プロジェクト発足時に実施した社内アンケートにおいて、約8割の社員が仕事と介護の両立への不安を持っていました。

「介護すること」「介護と仕事の両立」に対する不安を少しでも軽減してもらいたいとの想いから、セミナーを開催しました。

セミナー後のアンケートでは、仕事と介護を両立できると考えた社員が多くいたことが分かり、今後も引き続き様々な施策を通して両立支援に努めます。



女性活躍支援

座談会

他事業所で勤務している女性の管理職経験者やダイバーシティ推進プロジェクトメンバーとの交流を通じ、現在抱えている悩みの共有や今後のキャリアプランを描きやすくすることを目的に、各事業所において座談会を開催しました。

参加した社員からは、普段なかなか共有できない悩みを相談でき、前向きになって座談会を終えられたとの声が聞かれました。

座談会で出てきた意見などは今後の施策に活かしていきたいと考えています。



障がい者雇用推進

手話勉強会

播磨事業所では聴覚障がいを持つ社員が就業していますが、周囲の上司や同僚とのコミュニケーションを手話でとることが難しい状況でした。

そこで、コミュニケーション推進の一環として、手話の勉強会を行いました。

今後この勉強会を機に、「手話」の輪が広がるよう取り組んでいきます。



ウシオは、国際社会の一員として、また企業市民として、それぞれの地域社会の発展に貢献する取り組みを行っています。

「映像と音楽と照明」で女川の新しい町づくりを応援

中学生によるプロジェクションマッピングに機材協力

ウシオ電機の100%子会社であるウシオエンターテインメントホールディングス株式会社(ウシオエンターテインメント)は、2018年3月17日に宮城県女川町のJR女川駅前で開催されたコラボ・スクール女川向学館の中学生が制作・実施するプロジェクションマッピングに、高輝度プロジェクターや照明演出機器などの機材協力を行いました。

東日本大震災の4ヵ月後に開校し、学習支援と心のケアを進めている女川向学館では、中学生が自分の興味を見つけ、将来を考えるキッカケとすることを目的とした「探究授業」をプロジェクト形式で行っており、このプロジェクションマッピングはその一環で行われたものです。

女川の中学2年生の7名が映像制作、音楽制作、広報メディアの3チームに分かれ、プロジェクションマッピングに

必要なプログラム作成や地域住民の集客ポスターなどを自分たちで制作しました。

映像では、海や空、桜、雪の結晶、花火、昼間の駅前風景など、中学生が生まれ育った「女川町の春夏秋冬」が映し出され、約200名の観客からは拍手と歓声が上がりました。

ウシオエンターテインメントのスローガンは、「Beyond(超える)」。光と音と映像でこれまでの表現を超えていくというメッセージが込められており、今回、東日本大震災による苦労や苦難を乗り越えてチャレンジする女川町の中学生の姿勢が同社のコンセプトと重なったことが、今回の協力につながりました。

ウシオは、今後も地域の発展や子どもたちの教育に貢献していきます。



イベント
ダイジェスト映像



Roadster HD20K-J



VAYA Flood MP RGB

- ・主催：認定NPO法人カタリバ コラボ・スクール女川向学館
- ・プロジェクションマッピング制作協力：一般社団法人イトナブ石巻
- ・機材協力：ウシオエンターテインメントホールディングス株式会社
- ・後援：女川町教育委員会

広がる支援の輪

ウシオは、日本・中国・フィリピンで奨学生の支援を行っています

公益財団法人 ウシオ財団

1994年にウシオ電機設立30周年記念事業として設立されたウシオ財団(旧 財団法人ウシオ育英文化財団)は、グローバル化が進む中で、海外留学生を含む次代の世界を担う人材の育成に寄与し、諸外国との交流と相互理解を推進することで社会に貢献しています。

これまでに支援した奨学生の数は580名を数え、2017年度は留学生を含む60名に奨学金を支給しました。



牛尾電機(蘇州)有限公司

2009年1月に中国の蘇州大学との間で「蘇州大学牛尾電機奨学金」制度の協議書を締結し、それ以降毎年多くの学生たちに奨学金の支給が行われています。2017年度までに265名の学生に「奨学金栄誉証書」が手渡されました。



ウシオフィリピン

フィリピンでは、優秀な人材であっても経済的理由で学業を断念するケースや、卒業することができても雇用環境が良いとは言えず、結果として海外に出て働くケースが多く見られます。このような状況に鑑み、ウシオフィリピンでは2017年度から奨学金制度をスタートし、1年目は3名の学生の支援を行いました。



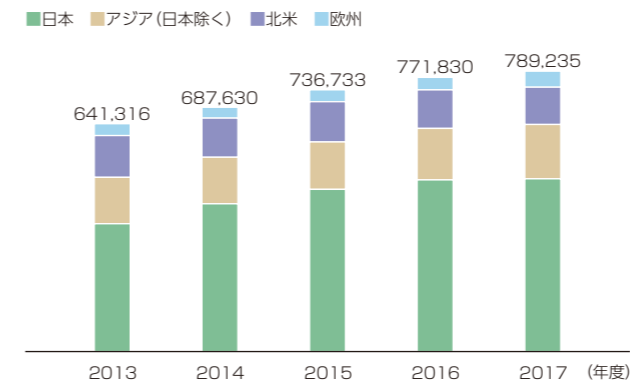
		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2017年度 単位：千米ドル*1
収益状況	売上高(百万円)	¥148,148	¥120,846	¥119,079	¥145,125	¥150,087	¥143,461	¥157,800	¥159,365	¥179,121	¥172,840	¥173,497	\$1,633,072
	売上原価(百万円)	98,020	81,644	82,666	96,962	101,635	95,196	101,809	98,030	110,717	112,383	111,350	1,048,105
	売上総利益(百万円)	50,127	39,202	36,413	48,163	48,451	48,264	55,991	61,335	68,403	60,456	62,146	584,966
	販売費及び一般管理費(百万円)	30,076	30,238	29,150	34,129	37,755	40,682	43,881	50,977	55,273	51,854	51,995	489,415
	営業利益(百万円)	20,050	8,963	7,262	14,034	10,696	7,582	12,110	10,357	13,130	8,602	10,151	95,551
	経常利益(百万円)	23,319	9,991	9,290	17,362	13,112	10,539	15,904	13,708	14,633	11,001	12,050	113,429
	親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	15,486	3,481	7,071	9,577	8,748	7,155	10,770	11,279	11,105	7,042	11,001	103,557
	営業利益率(%)	13.5	7.4	6.1	9.7	7.1	5.3	7.7	6.5	7.3	5.0	5.9	
	経常利益率(%)	15.7	8.3	7.8	12.0	8.7	7.3	10.1	8.6	8.2	6.4	6.9	
	親会社株主に帰属する当期純利益率(%)	10.5	2.9	5.9	6.6	5.8	5.0	6.8	7.1	6.2	4.1	6.3	
配当・1株当たり情報	1株当たり当期純利益(円)	112.96	25.76	52.95	71.72	66.26	54.57	82.19	86.40	85.83	55.06	86.11	0.81*2
	1株当たり純資産(円)	1,177.77	1,083.63	1,162.26	1,169.42	1,211.51	1,324.13	1,440.94	1,653.88	1,621.97	1,664.40	1,683.42	15.85*2
	配当金総額(百万円)	3,279	2,671	2,670	2,937	2,884	2,884	3,388	3,139	3,353	3,329	3,329	31,340
	1株当たり配当金(円)	24.00	20.00	20.00	22.00	22.00	22.00	26.00	24.00	26.00	26.00	26.00	0.24*2
	配当性向(%)	21.2	77.7	37.8	30.7	33.2	40.3	31.6	27.8	30.3	47.2	30.2	
	純資産配当率(%)	2.0	1.8	1.8	1.9	1.8	1.7	1.9	1.5	1.6	1.6	1.6	
資産状況	総資産(百万円)	216,659	184,401	202,119	217,292	224,412	228,657	255,338	294,542	294,525	308,430	307,265	2,892,181
	流動資産(百万円)	111,914	102,706	112,722	130,730	143,120	140,646	153,004	178,774	170,173	180,334	188,230	1,771,749
	有形固定資産(百万円)	38,227	36,850	36,151	36,457	37,827	36,776	39,126	40,014	42,310	44,809	41,578	391,361
	投資その他の資産(百万円)	63,522	42,303	50,217	47,064	39,564	48,371	59,048	68,655	71,256	74,062	71,144	669,662
	流動負債(百万円)	38,159	26,744	32,035	41,458	40,634	37,950	39,957	44,886	49,463	54,592	54,793	515,754
	有利子負債(百万円)	11,688	11,122	9,122	12,283	12,864	9,427	8,258	14,063	14,512	27,771	26,823	252,485
	純資産(百万円)	162,092	145,774	156,685	157,867	162,048	176,784	191,246	218,723	211,296	213,289	215,306	2,026,602
	株主資本(百万円)	148,122	144,250	148,643	155,544	158,341	162,609	169,482	178,891	183,057	185,658	193,332	1,819,770
	総資本回転率(回)	0.65	0.60	0.62	0.69	0.68	0.63	0.65	0.58	0.61	0.57	0.56	
	流動比率(%)	293.3	384.0	351.9	315.3	352.2	370.6	382.9	398.3	344.0	330.3	343.5	
	自己資本比率(%)	74.3	78.5	76.8	71.9	70.8	75.9	73.5	73.3	70.9	68.9	70.0	
	ROE(%)	9.4	2.3	4.7	6.2	5.6	4.3	6.0	5.6	5.2	3.3	5.1	
	ROA(%)	6.8	1.7	3.7	4.6	4.0	3.2	4.5	4.1	3.8	2.3	3.6	
	インタレストカバレッジレシオ(倍)	41.7	31.7	77.1	39.3	61.1	68.5	48.7	51.0	48.1	41.9	26.5	
D/Eレシオ(%)	7.9	7.7	6.1	7.9	8.1	5.8	4.9	7.9	7.9	15.0	13.9		
固定長期適合率(%)	63.7	52.3	55.2	49.9	45.1	49.9	52.9	55.2	57.4	56.6	51.6		
キャッシュフロー状況	営業活動によるキャッシュフロー(百万円)	15,237	11,873	18,999	8,390	12,382	14,443	10,622	9,876	12,031	12,624	15,567	146,529
	減価償却費(百万円)	5,834	6,280	6,219	6,476	7,139	6,741	5,021	5,919	6,495	6,587	6,790	63,912
	投資活動によるキャッシュフロー(百万円)	△10,041	△3,194	△12,714	△1,679	1,911	△8,649	△4,476	△3,710	△10,367	△15,254	4,322	40,684
	財務活動によるキャッシュフロー(百万円)	△85	△7,588	△4,760	1,081	△7,615	△7,092	△6,670	1,210	△7,849	6,864	△3,613	△34,011
	フリーキャッシュフロー(百万円)	5,196	8,679	6,285	6,711	14,293	5,794	6,146	6,166	1,664	△2,630	19,889	187,213
	現金及び現金同等物の増減(百万円)	2,578	△371	1,265	6,264	6,630	1,676	2,080	11,646	△9,176	3,161	15,061	141,765
	現金及び現金同等物期末残高(百万円)	27,700	27,329	28,595	34,954	41,585	43,261	45,342	56,989	47,813	50,974	66,035	621,568
	キャッシュフロー有利子負債比率(年)	0.8	0.9	0.5	1.5	1.0	0.7	0.8	1.4	1.2	2.2	1.7	
売上高減価償却費率(%)	3.9	5.2	5.2	4.5	4.8	4.7	3.2	3.7	3.6	3.8	3.9		

注記：*1 米ドル金額は、2018年3月末現在の1米ドル=106.24円で円貨額を換算したものです。
*2 米ドル

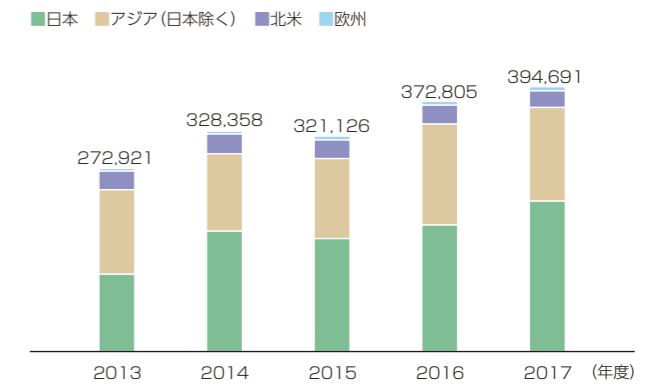
項目	範囲	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	
エネルギー使用量 (GJ)	日本	359,783	415,928	456,607	483,208	486,231	
	アジア(日本除く)	130,670	131,039	133,406	144,971	153,004	
	北米	117,552	110,142	113,337	108,441	104,934	
	欧州	33,311	30,521	33,383	35,210	45,066	
水使用量 (m³)	日本	115,242	179,398	168,338	188,505	224,145	
	アジア(日本除く)	125,811	115,291	119,249	150,493	139,628	
	北米	27,715	29,440	27,656	28,132	24,667	
	欧州	4,153	4,229	5,883	5,675	6,251	
廃棄物総排出量 (t)	日本	517	520	865	679	637	
	アジア(日本除く)	140	127	158	164	125	
	北米	518	457	438	444	396	
	欧州	47	46	62	46	69	
GHG (CO₂) 排出量 (t-CO₂)	SCOPE1	日本	1,313	1,851	2,429	2,675	2,884
		アジア(日本除く)	360	363	363	306	303
		北米	542	499	434	441	566
		欧州	542	314	317	380	375
	SCOPE2	日本	15,941	18,372	22,250	22,715	22,429
		アジア(日本除く)	7,244	7,696	7,574	8,281	8,803
		北米	2,153	1,919	2,943	2,845	2,593
		欧州	1,040	935	1,308	1,337	1,947
	SCOPE3	連結	343,969	1,521,467	994,618	1,509,281	1,346,960
	従業員数 (名)	日本	2,381	2,460	2,596	2,572	2,463
アジア(日本除く)		1,324	1,066	1,127	1,213	1,368	
北米・南米		1,519	1,758	1,886	1,882	1,791	
欧州		246	256	277	296	225	
新卒採用数 (名)	単体	男	8	19	12	7	9
	女	3	6	5	3	6	
新卒者の3年定着率 (%)	単体	男	94	97	96	100	95
	女	100	100	88	100	83	
平均勤続年数 (年)	単体	男	15.4	16.1	16.7	17.5	17.9
	女	16.0	16.9	17.8	18.7	19.2	
月間法定残業時間 (時間/人)	単体	14.9	13.5	15.2	12.0	12.3	
有給休暇取得率 (%)	単体	68.5	68.3	72.8	74.0	71.1	
出産休暇取得件数 (件)	単体	29	28	19	22	27	
育児休暇取得件数 (件)	単体	男	4	3	5	6	3
	女	29	25	22	22	27	
介護休暇取得件数 (件)	単体	0	0	0	0	2	
出産・育児休暇後の復職率 (%)	単体	100	100	100	95.50	100	
災害度数率 (%) (労災死者数÷延べ労働時間×100万)	単体	0.00	0.00	0.26	0.00	0.00	
災害強度率 (%) (労働損失日数÷延べ労働時間×1000)	単体	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
特許保有件数 (件)	単体	1,374	1,339	1,425	1,514	1,532	

注記 ・エネルギー使用量、水使用量、廃棄物総排出量、SCOPE1、SCOPE2の集計範囲は当社の定める連結環境経営範囲となります。
 詳しくは当社ウェブサイト「環境データ集」のページをご覧ください。
<https://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/ecodata.html>
 ・SCOPE3の集計範囲はカテゴリごとに異なります。詳しくは当社ウェブサイト「地球温暖化対策」のページをご覧ください。
<https://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/effect.html>
 ・電力のCO₂換算係数は以下を使用
 国内：平成28年度実績電気事業者別/海外：国際エネルギー機関(IEA)「CO₂ emissions from fuel combustion 2013」
 ・CO₂以外の温室効果ガス(GHG)は排出していません。
 ・新卒者の3年定着率は、該当年度4月に3年目となる人数(例：2013年度の欄：2010年に入社し、2013年4月時点の在籍者数)。

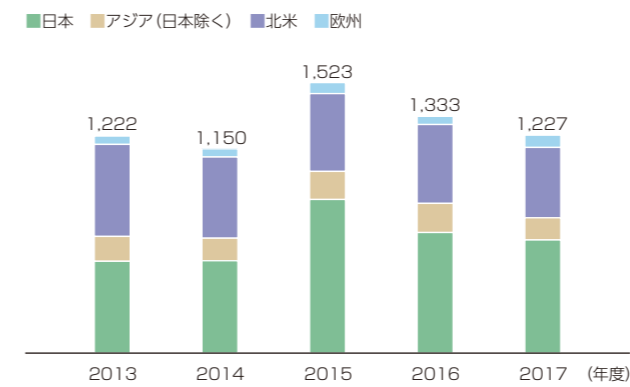
エネルギー使用量 (GJ)



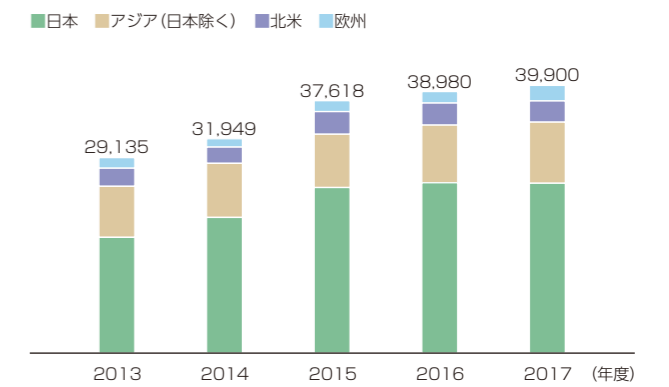
水使用量 (m³)



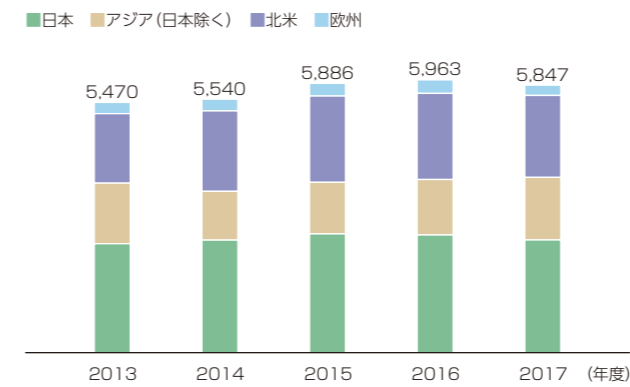
廃棄物総排出量 (t)



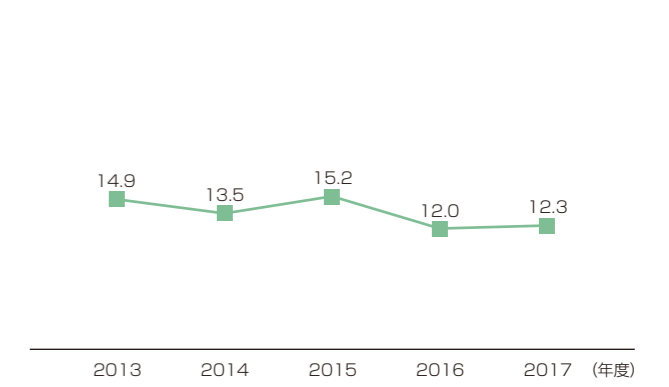
CO₂排出量 (SCOPE1+2) (t-CO₂)



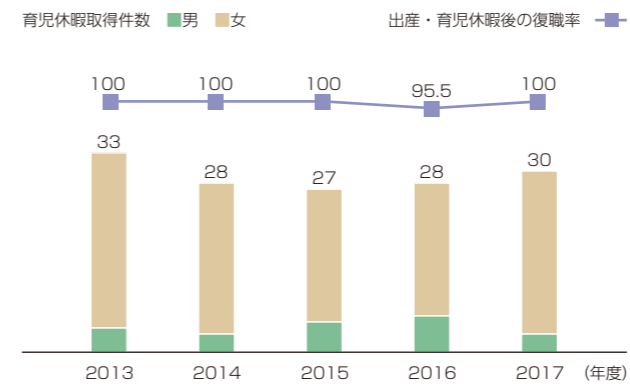
従業員数 (名)



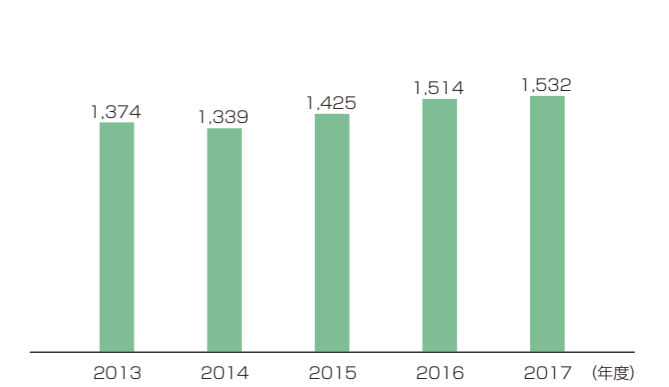
月間法定残業時間 (時間/人)



育児休暇取得件数 (件) および出産・育児休暇後の復職率 (%)



特許保有件数 (件)



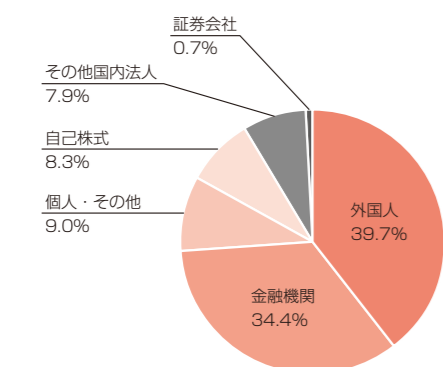
発行済株式総数	139,628,721株
株主数	10,907名

大株主の状況 (200万株以上)

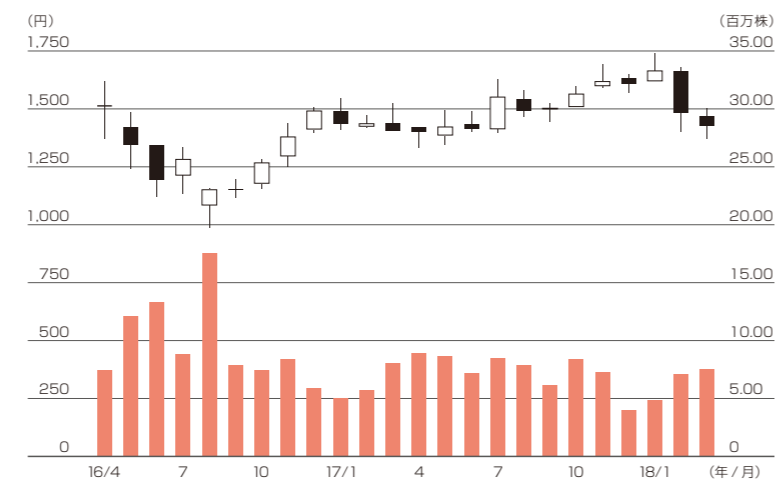
株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,544	6.83
株式会社りそな銀行	6,319	4.52
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6,016	4.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,369	3.84
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼンプテド ペンション ファンズ	5,366	3.84
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.06
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SSD00	2,906	2.08
牛尾 治朗	2,836	2.03
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,319	1.66
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) アカウント ノン トリーティー	2,318	1.66
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	2,212	1.58
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	2,186	1.56

※上記のほか、自己株式が11,573千株あります。なお、自己株式11,573千株には、役員向け株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式292千株は含んでおりません。

株式の分布の状況



株価の動き / 株式売買高



設立	1964年3月	
資本金	19,556,326,316円	
従業員数	ウシオ電機本体	1,590名
	国内グループ計	873名
	海外グループ計	3,384名
	合計	5,847名
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社	

事業所および主なグループ会社

ウシオ電機株式会社	本社	東京都千代田区
	播磨事業所	兵庫県姫路市
	御殿場事業所	静岡県御殿場市
	横浜事業所	神奈川県横浜市
	大阪支店	大阪府大阪市
	川崎バイオラボ	神奈川県川崎市
国内グループ会社	ウシオライティング株式会社	
	株式会社ジーベックス	
	株式会社アドテックエンジニアリング	
	ウシオオプトセミコンダクター株式会社	他7社
海外グループ会社	北米	
	USHIO AMERICA, INC.	
	CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.	
	CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.	他14社
	欧州	
	USHIO EUROPE B.V.	
	BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH	他7社
	アジア	
	USHIO HONG KONG LTD.	
	USHIO TAIWAN, INC.	
	USHIO PHILIPPINES, INC.	
	USHIO (SUZHOU) CO., LTD.	
	USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
	USHIO KOREA, INC.	
USHIO SHANGHAI, INC.		
USHIO SHENZHEN, INC.	他14社	

統合レポートに対する第三者意見

ウシオグループは、本年度初めて、財務・非財務情報を統合したUSHIO Reportを発行されました。株主・投資家を含む様々なステークホルダーに対しグループの持続的成長をアピールする媒体として、本レポートについて、第三者の立場から意見を述べさせていただきます。

グループの持続的成長の核を示す価値創造モデルと中期経営計画では、「未来は『光』でおもしろくなる」をスローガンに、グループの強みである「光」を軸とした揺るぎない理念、歴史、将来像が、社長メッセージと図解を通じて語られています。特に、新規事業については、独立のセグメントとして積極的に取り組んでいくことが示され、今後の発展が期待されます。

CSR/ESG/SDGsでは、実行体制、具体的成果、投資市場の評価、今後の行動計画が示され、社会課題の解決を事業成長と長期的に結び付ける戦略が述べられています。コーポレートガバナンス、人材、地

域など多様なステークホルダーへの認識もバランスよく語られると共に、詳細は個別マテリアルへのリンクを示すなど、広がりを持たせています。

最後の定量データは、過去の実績を含め、適当な量を掲載していると思います。

今後はこの流れを一層充実させ、新規事業の成長、社会課題解決事例の拡大、多様なCSR/ESG/SDGs活動のリンクを通じた参照の充実などを図り、様々なステークホルダーにとって「未来が『光』でおもしろくなっていく」ことを伝えていかれることを期待します。

株式会社フィスコIR
ストラテジスト
兼ESGソリューションチーム
チーフマネージャー

川名 剛

USHIO Report 2018 発行にあたって

当社では、従来個別に発行しておりましたアニュアルレポートとサステナビリティレポートを一本化し、財務面と非財務面の情報を報告する冊子として統合レポートを発行することといたしました。統合レポートが当社を取り巻く幅広いステークホルダーの皆さまとの新たなコミュニケーションツールとなるよう、当社が考える「重要性」「簡潔性」および「持続性」に重点をおき作成いたしました。

ウシオは1964年の創業以来、「未来は『光』でおもしろくなる」をキーワードに、「光」の特性に着目し、「光」をあかりとしてだけでなく、紫外線・赤外線をエネルギーとして利用することで、多くの世の中の技術革新に貢献して参りました。その源泉となる当社のユニークな価値創造モデルにより成長を成し遂げてきたウシオの魅力を感じていただくとともに、今後のウシオに期待をしていただけたら幸いです。

本統合レポートは当社にとって初めの試みということもあり不十分な点多々あることと存じますが、当社の持続的な成長のストーリーをご理解いただくことができますよう更なる充実に努めてまいります。ぜひ、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

2018年10月

執行役員
経営戦略部門長

朝日 崇文



より詳しい情報について

IR情報(財務情報)

ウシオ電機コーポレートサイト内の投資家情報をご覧ください。



以下の資料がご覧いただけます。

- ・有価証券報告書
- ・中期経営計画
- ・決算説明資料
- ・決算短信

<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/#library>



CSR情報(非財務情報)

ウシオ電機コーポレートサイト内のCSR・環境ページをご覧ください。



以下の情報がご覧いただけます。

- ・環境の取り組み
- ・グリーン調達基準
- ・CSR調達方針
- ・国際的イニシアティブとの整合性

<https://www.ushio.co.jp/jp/csr/>



免責事項

本レポートには、将来の業績の見通しに関する計画や経営戦略などの記述が含まれています。これらは現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の仮定および予想に基づいています。今後、社会的・経済的状況の変化などの影響により、実際の業績とは異なる結果となる場合があることをご了承ください。

「USHIO Report」の著作権は、ウシオ電機株式会社に帰属します。当社に無断での転載・転用を固くお断りします。

本レポートに関するお問い合わせ

ウシオ電機株式会社 経営企画部 IR担当
Tel: 03-5657-1007 Mail: ir@ushio.co.jp